

平成27年7月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成27年7月21日 (火)		
2 開会及び閉会	開会	13時33分	
	閉会	17時13分	
3 出席委員	委員長	曾田佳代子	
	委員	東條光彦	
	委員	奥津晋	
	委員	塩田澄子	
	委員(教育長)	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	植田朋哉	審議監(学校教育担当)	天野和弘
審議監(生涯学習担当)	山口啓二	教育企画総務課長	赤野政治
指導課長	岡林敏隆	指導課教育支援担当課長	松浦敏之
生涯学習課長	安信卓	文化財課長	乗岡実
指導課課長補佐	平井秀尚	指導課人権教育室室長	河合浩一
指導課教育支援室室長補佐	渡邊裕一	地域子育て支援課課長補佐	田中光彦
指導課指導係長	植山智恵	教育研究研修センター 指導主査	有友雅人
指導課指導副主査	高木直美	指導課指導副主査	竹中茂樹
指導課指導副主査	永井正博	指導課指導副主査	岡孝之
指導課指導副主査	渡瀬隆美	指導課指導副主査	松岡孝佳
教育研究研修センター 指導副主査	太田順		
事務局(教育企画総務課主査)	生田裕宣	事務局 (教育企画総務課指導主査)	花房明彦
5 議題及び結果			
第25号議案	岡山市文化財保護審議会への諮問について		原案可決
第26号議案	平成28年度使用教科用図書の採択について		継続審議

6 教育長等の報告 [平成27年6月6日(土)～平成27年7月10日(金)]		
6/11	平成27年度第1回岡山型ESD推進事業連絡協議会・平成27年度第1回ユネスコスクール推進校連絡協議会	指導課
6/11	平成27年度第1回岡山市問題行動等対策委員会	指導課
6/12	新成人の集い第1回実行委員会	地域子育て支援課
6/26	PTA ホームページ研修	生涯学習課
6/30	いきいき学校園づくり	指導課
7/1	いきいき学校園づくり	指導課
7/2	いきいき学校園づくり	指導課
7/3	いきいき学校園づくり	指導課
7/6～10	『岡山っ子』学力向上推進事業「好事例に学ぶ」	指導課
7/8	いきいき学校園づくり	指導課
7/9	いきいき学校園づくり	指導課
7/9	平成26年度岡山市教育委員会の事務に関する点検・評価に係る外部評価委員会議	教育企画総務課
7/10	いきいき学校園づくり	指導課
塩田委員 地域子育て支援課 課長補佐 委員長 地域子育て支援課 課長補佐 委員長 全委員 奥津委員 指導課長 奥津委員 指導課長 委員長 指導課長 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3番の新成人の集いの実行委員会だが、昨年度いろいろな課題があったと思うが、そういった話は出てきていたのか。 ○ 昨年度の反省も踏まえ、今年度は式典の部分とそれ以外の部分というメリハリがきいた新成人の集いになるように検討中である。今年度、新たな実行委員会16名が参加し、現在のところ3回実施しているところである。 ○ 塩田委員も言っておられたが、いろいろな課題の中に会場とか持ち方とか多岐にわたっていたが、そういうことについてはもう決まっていきつつあるのか。 ○ 会場のことも今検討しているところである。今年度は岡山ドームでということを進めており、決定済みであるが、来年度に向けては岡山ドームも一つの候補地であり、その他の場所も現在検討中である。今年度の新成人の集いがどのように運営されるかで最終決定をしていきたいと考えているところである。 ○ この件に関してよいか。 ○ <了承> ○ 9番の秋田県の好事例に学ぶということについて、いつごろどのような形で報告書あるいは何らかのものが出るのか。 ○ 7月の中旬に小学校、中学校の指導教諭1名ずつと指導課の指導副主査1名の合計3名で秋田の小・中学校・事務局を訪問した。8月の中旬に指導課と情報交換・情報共有をし、秋に全校を集めての協議会を開催し、そこで事例について、指導教諭それぞれから報告をしてもらう予定である。 ○ 秋に全学校集めてということか。 ○ そうである。 ○ 今の時点で、これはという特筆すべき好事例があるか。 ○ 特に参加した者の印象に残っているのが、一つ一つの授業において秋田の先生方が子ども同士を上手につないでいく様子であった。多少岡山とは違っているところであるという感想を持っており、その部分が子どもたちが一人一人学びを深めていくための要素になっているのではないかという分析をしている。 ○ まとめていくまでに時間があるのであろうが、早い段階でこの会にも、今回どういうことを学んできたのかも含めて、それをもとに次にどう動こうと 	

<p>指導課長 委員長 東條委員</p> <p>指導課教育支援担当 課長</p> <p>東條委員</p> <p>指導課教育支援担当 課長 東條委員</p> <p>指導課教育支援担当 課長 委員長</p>	<p>しているかということも報告をしてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 9月の会にはご用意する。 ○ ほかの報告についてはいかがか。 ○ 2番の問題行動等対策委員会に関して、ここで各委員から指摘されているそれぞれの問題に対するコメントを具体的に教えていただきたい。 ○ この会では、岡山県警と岡山市教育委員会との相互連絡制度に関する協定書について冒頭で説明し、その後質疑を行っている。この協定書に関しては、連絡の範囲が曖昧で限定されないのではないかと、連絡する内容が広がり過ぎるのではないかとというような意見も出たが、全体的には協定書ができることで学校と警察との連携が進むのではないかとという意見が多く出された。 次に、生徒指導に係る事業全般について、9つの事業をこの中では説明をさせていただくが、そのうち4つの事業についてこの日は説明と質疑を行った。主な意見としては、指導課として学校に毎月3日以上欠席をした児童生徒について報告を求めているが、こういった取り組みがまず大事なのではないかというような意見があった。また、Q-Uなどの質問紙調査については、結果分析と活用方法を浸透させることが大切であり、対人関係の数値が低いということがわかっているのであれば、そこが課題であるので、授業の中での活用、授業を通した学級集団づくりが大切であるとの意見があった。スクールカウンセラーについては、スーパーバイザーという制度も必要ではないかという意見があった。不登校児童・生徒支援員については、勤務時間が1日3.5時間と短いため、その中での担任の先生との連携が課題ではないかというような意見があった。 ○ 9つの事業のうち4つの事業に関して説明されたが、残りの5つの事業についてはまた別日に行うということか。 ○ 次回、残りの5つの事業について説明と質疑を行う予定にしている。 ○ いつごろの予定か。 ○ 当初の予定は8月から9月と考えていたが、各委員の予定が合わないため9月か10月のあたりで行うことを検討している。 ○ いじめも問題行動も不登校も関係している委員会であると思うので、どうぞよろしく願います。
<p>7 議事の概要</p>	
<p>委員長 委員長 全委員 委員長 全委員 委員長 全委員 委員長</p> <p>委員長 文化財課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月の岡山市教育委員会定例会を開催する。 ○ 本日の傍聴希望者は抽選の結果12人。入室してもらってよいか。 ○ <承認> ○ 日程第1、会期は本日1日限りとしてよいか。 ○ <承認> ○ 日程第2、6月定例会の議事録に問題はないか。 ○ <承認> ○ 日程第3、教育長等の報告、事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載) ○ 第25号議案であるが、文化財課から願います。 ○ 本件は、新たに1件を岡山市指定文化財に指定するため、岡山市文化財保護条例第10条に基づき、教育委員会があらかじめ岡山市文化財保護審議会に諮問を行い、意見を求めようとするものである。 指定を行おうとするのは、東区にある西大寺観音院所有の軸装の仏教絵画で、現在は岡山県立博物館に寄託されている。

<p>委員長</p> <p>文化財課長 委員長</p> <p>教育長 文化財課長 教育長 文化財課長 教育長</p> <p>文化財課長</p> <p>委員長 文化財課長</p> <p>奥津委員</p> <p>文化財課長</p> <p>委員長 東條委員 文化財課長</p>	<p>この物件の文化財としての種類は、有形文化財、そのうちの絵画という種類になる。</p> <p>絹のキャンバスに描かれた精緻な絵で、絵の構図は中央に白い象に乗った釈迦の弟子である普賢菩薩を描き、左側の象の鼻の先にはのぼりを持った2人の童子、右側には十羅刹女と呼ばれる群像が描かれている。こうした絵画は、法華経信仰に基づくもので、特に女性から信仰を集めたとされている。同様の構図の平安時代の作品は、国宝や重要文化財に指定されたものがあり、本品はその流れをくむ14世紀代、南北朝時代の作品と考えられる。本作品は、平安時代の仏教絵画の流れを正統に引き継ぐ逸品で、市内では他に例がなく、岡山市の文化財として重要なものと考えている。</p> <p>今回諮問についての議決をいただければ、文化財保護審議会に諮問を行う。審議会で審議の上、順調に指定にふさわしいという答申をいただければ、改めてこの教育委員会で諮り指定という流れになる。</p> <p>なお、岡山市文化財保護条例に基づく指定文化財は、本件が指定されれば110件目、絵画としては5件目となる。</p> <p>ご審議のほどよろしく願います。</p> <p>○ 市重要文化財としての保護を審議会に諮問するということであるが、いかがか。</p> <p>○ 写真を配る。</p> <p>○ 協議会で写真をいただいたが、正式に委員会のほうで諮りたいと思うので、ご覧いただきたい。</p> <p>○ 市内にはほかにはないのか。</p> <p>○ 同じような構図の絵は市内にはない。</p> <p>○ 絹であるか。</p> <p>○ キャンバスは絹である。</p> <p>○ 絹をキャンバスにこのような仏教絵画を描かれているものはあるが、このようなものはないということか。</p> <p>○ そうである。こういう普賢菩薩と十羅刹女をした法華経に基づく仏教絵画は市内には今のところ確認はされていない。</p> <p>○ 破損状態や保存状態はどのような状況か。</p> <p>○ 現在、県立博物館に保存環境を担保するために所有者が預けている。現状は、巻物であるので、少し傷みが進んでいるという状況である。それから、このような作品には一般的によくあることであるが、南北朝時代に描かれたものに対して、若干後の時代に修理等手を加えた部分がある。</p> <p>○ 指定されることによって、この絵にとってのメリットにはどういうものがあるのか。</p> <p>○ 1つ目は、あくまでも文化財として指定するということで、いわゆる宗教とは切り離しての話になるが、市民あるいはさらに言えば国民共有の文化財としての位置づけが明確化されるということ、例えて言えば文化財としての位置づけ、お墨つきが与えられるということがある。所有者にとっては、万が一修理をするということになれば、予算の範囲内で条例の定めるところ、上限が5割ということになるが、補助金を使うことができるということである。</p> <p>○ メリットがありそうである。</p> <p>○ 今は公開はされていないのか、収蔵されているのか。</p> <p>○ 現在は県立博物館に収蔵されており、日常的な公開はされていない。特に、文化財はこの物件も含めて指定文化財になると、常時365日展示をすると物に対して負荷がかかるということ、例えば国宝などは法律あるいは文化</p>
---	--

<p>教育長</p> <p>委員長 全委員 委員長</p>	<p>庁の通達で年間60日以内と明確な規定がある。この物件については、少し傷んでいるということと、文化財クラスのものであるということ、現状では展示はされていない。ただ、県立博物館で行われた過去の企画展では展示をされたことがあるというふうに聞いている。</p> <p>○ こちらからは諮問する立場であるため、委員会で専門的な方に見ていただくなかで、価値があるということになれば、答申いただける。よって諮問という形をまずとっていくのがよいと思う。</p> <p>○ 委員会として、この諮問はこのとおり可決ということによいか。</p> <p><承認></p> <p>○ よろしく願います。</p>
<p>指導課長</p>	<p>続いて第26号議案を指導課から願います。</p> <p>○ 第26号議案は、岡山市立小学校、岡山市立中学校及び岡山後楽館中学校、岡山後楽館高等学校並びに小学校、中学校の特別支援学級における平成28年度使用教科用図書を採択するものである。</p> <p>初めに、中学校及び岡山後楽館中学校で使用する教科用図書の採択をお願いする。中高一貫校である岡山後楽館中学校については他の中学校とは別に採択を行うことができるが、岡山市においては他の中学校と同じ教科用図書の採択をお願いする。</p> <p>委員の方々には、6月中旬、見本本を送付しており、内容には既に目を通していただいていると思う。また、教科用図書選定資料も事前にお送りしており、本日まで独自に調査研究を進めていただいていることに感謝する。</p> <p>また、教科書展示会で記入されたアンケートを机の上に置かせていただいているので、参考にしていただければと思う。</p> <p>では、教科用図書選定資料について説明する。</p> <p>お手元の教科用図書選定資料については、2つの視点から調査研究を行ってきた。1点目は、岡山市の教育方針である自立する子どもの育成に向けて、豊かな人間性、自分を高める、共に生きるの3つの観点を踏まえ調査研究を行っている。2点目は、岡山市の子どもの課題を少しでも解決するという視点である。</p> <p>各教科種目における岡山市の子どもの課題については、この後、担当指導主事が説明する。</p> <p>それでは、これから種目ごとに採択する教科用図書と採択理由を決定していただくが、進め方については次にお話しする3つの段階で行うことを考えている。まず、事務局から教科書の種目ごとに岡山市の子どもの課題や教科用図書選定委員会が出た意見等について説明する。これが第1段階である。続いて、見本本または選定資料について質問、確認事項があれば聞かせていただき、それに対してお答えをさせていただく。これが第2段階である。そして最後に、意見交換をしていただき、採択すべき教科用図書とその理由を決めていただきたいと考えている。採択理由については、3点程度にまとめていただきたい。</p> <p>なお、見本本については、既に目を通していただいているが、本日も同じものを机の上に並べている。審議の際に必要なに応じてご覧いただきたい。</p> <p>以上で中学校用についての説明を終わる。では、よろしく願います。</p>
<p>委員長</p> <p>指導課指導副主査</p>	<p>○ 教科ごとに行きたいと思う。見本本の一覧の順番、国語、書写、地理、歴史という順番で行きたいと思う。</p> <p>○ 国語について説明する。</p> <p>岡山市の子どもの国語における課題としては、正確に聞き取ったり読み取ったりすることや条件を満たした文章を書くことが苦手であることなどが</p>

	<p>上げられる。</p> <p>続いて、発行者ごとに教科書の主な特徴をお伝えする。</p> <p>まず、東京書籍である。学びの扉では、要約はどのようにすればできるのかわかりやすく書かれているなど思考力、判断力、表現力が養われるよう工夫されているという意見が出た。</p> <p>次に、学校図書である。それぞれの単元に自己評価の基準が示されており、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されているという意見であった。</p> <p>次に、三省堂である。読むことの教材や巻末に設けられた読み方を学ぼうは、生徒が読解のポイントを意識し、学習を振り返ることができる工夫がなされているという意見であった。</p> <p>次に、教育出版である。目次にもあらわれているように、生徒の思考段階とリンクさせて言葉の領域を配列することで習得、活用を効果的に反復学習することができるよう配慮されているという意見であった。</p> <p>最後に、光村図書である。読むことの教材の終わりに示された3段階の学習内容は、生徒が自分たちで学習を深めていくことができるようになっているという意見が出た。</p> <p>以上で国語についての説明を終わる。</p> <p>委員長 ○ 見本本は1カ月以上前から読んでいただいているが、資料について、もう少し聞きたいことがあれば出していただきたい。</p> <p>教育長 ○ 3段階というのは光村図書であったか。</p> <p>3段階というのは、確認しようとか、それから話をしよう、話し合おうなどと、確認、読みを深めよう、それから考えを持とうという段階が教材ごとに設定をされているという意味であるか。</p> <p>指導課指導副主査 教育長 ○ そういう意味で意見が出た。</p> <p>○ いずれかの教材ではなく、全ての教材でそのようになっていると考えることができるのか。</p> <p>指導課指導副主査 委員長 ○ 読むことの教材に設定されている。</p> <p>東條委員 ○ ほかにはないか。</p> <p>○ 子どもの課題で、基本的な語彙が乏しいというのが挙がってくる。それが原因で思考が深まりにくいということになっているが、各社の教科書は思考を言葉の力を借りて掘り下げるといような形、いろんな特徴を持って思考力を上げていくような工夫があると思うが、語彙が乏しいということになるとそれ以前の話だという感じになりそうである。それぞれの教科書の語彙を豊富にしていくような工夫というのは、ほぼ均等に力を注いでいるというふうに見ればよいということか。その上でのいろいろな工夫だという読み取りでよいということか。</p> <p>指導課指導副主査 ○ 教科書によっては、主に教科書の後ろにある資料の中に授業の中で使えるような言葉の一覧表が載っているという工夫があったり、各教材の中でもそういった力を伸ばしていくというような視点でつくられていたりするという意見は出ていた。</p> <p>東條委員 ○ 岡山市の場合は、岡山型一貫教育ということで小学校と中学校の系統性あるいは連動性というものを少し意識してということになると思うが、そういうことを割と意識している教科書と、中学校は中学校で完結するというイメージの教科書があると思うが、やはり小中一貫ということを少し意識しているほうがよいという考えはあるのか。</p> <p>指導課長 ○ そのように系統立ててつくっている教科書があれば、我々が望んでいるところには当てはまるかもしれないが、なかなかそこまで十分には読み取れな</p>
--	--

<p>委員長</p>	<p>いところはある。</p> <p>○ 小学校はもう採択が済んでいるわけだが、もし今年中学校が同じ出版社でないものを使ったとして、いきいき学校園づくりで研究をしているが、そのつながりには、教科書が変わっても学習指導要領がベースになっていれば問題ないことか。それとも多少やりにくいことが出てくるのか。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ 学習指導要領に基づいて教科書は全てつくられており、教員も授業をする上ではそのことを踏まえて行うため、大きな段差があつて困るということはないというふうに考えている。それから、小学校の採択結果が大きく中学校の採択に影響されるというのは、本来主体的に採択するという趣旨にはあつていないと考える。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 中身で決めるということである。 ほかに質問はないか。</p>
<p>全委員 委員長</p>	<p><なし></p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 見本本について委員の方々がどのように判断されたのか考えをお話しいただきたい。</p> <p>○ まず国語で何が一番大事かというのを考えたときに、やはり読書の習慣とか本を読む、活字を読むということに親しみ習慣化できれば一番よいと思う。それに向けて興味を持って読書とか活字を読むと、またその能力が上がるということに重点を置いたほうがよいのではないかなという見方をした。そのような意味で、よいなと思ったのが三省堂と光村図書であった。この2社は興味を持ってほかに本を読んでいこうと思ったり、読書習慣をつける上で、図書館に行って本を借りてみようと思ったりすることに導きやすいのではないかと思った。双方甲乙つけがたいという印象はあったが、巻末の資料の充実度では三省堂の方が少しよいという気がした。そのような印象である。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ 私も教科書を読んでみて、光村図書か三省堂と思う。こちらは本当に甲乙つけがたく、選びようによっては、少し方向性が違ってくるのではないかと感じている。光村図書であるが、先ほど小学校から中学校へのつながりというところで、最初のところで導入の仕方がすごくうまいと思った。声を届けるとか書きとめるとか調べるといったところで、知っておかなければいけないこと、例えば発表の仕方であるとかノートのとおり方であるとか、辞書やインターネット、図書館での調べ方、学びを始める前に導入しておくべきことがしっかりと書かれていると思った。</p> <p>先ほど語彙の話が出たが、やはり言葉の手帳とか読書記録というものをつくろうというところで、印象に残った言葉とか、気になった言葉を1年生の最初からノートをつくって自分で書きとめたり、読書したことを記録していったりすることで、3年間の自主学習の足跡というのがこの段階でできていくのかなということを感じた。</p> <p>三省堂については、岡山市が取り組んでいる「授業これだけは」で授業のめあてをしっかりと持ち、最後復習をしっかりと確認をするということを言っているが、めあてを持つうえで領域別の教材一覧というものが非常に視覚的に見やすく、わかりやすくなっており、教員と生徒の間で学ぶべきことが共有できるような形になっているなというふうに思った。</p> <p>先ほど奥津委員も言われたが、読書へのいざないに特徴がある。1年生だと「トロッコ」を題材に上げているが、芥川龍之介のその他の作品の一文を少しとり上げていて、それを読むことによってほかの作品も読みたくなるような誘導の仕方がより効果的であると感じた。</p> <p>三省堂は、説明が詳細でわかりやすいという印象である。岡山の子どもた</p>

委員長
塩田委員
教育長

ちの課題がこれから基礎学力を上げていくことであったり、家庭学習というようなところに重点を置くということになったりするのであれば、わかりやすく一人で学べるという点では使いやすいのではないかと感じた。

- 三省堂ということか。
- 三省堂である。
- どの教科書会社もまとめ方であるとか、学習の進め方というものについてそれぞれ段階というものを示されていたり、まとめ方、実生活にいかにかかしていきことができるのかというような視点からも編集されていたりする。三省堂、光村図書という2社については、なかなか比べることが難しい。三省堂は例えば最初のところに一覧表があって、つけたい力はこういうものだとわかりやすくまとめてある。内容的に読んでみたときに、三省堂の方は学習活動自体を考えたときに、あまり難しくない展開になるように思われる。取り組みやすいだらうと思う。ただ、文章自体が長文のものもあるので、教える側がきちんと内容をどこまでを目指していくのかということをしっかり把握をするというか、自分自身で捉まえた中で目標を持って指導していく力というのが求められていると思う。結局、教師が先ほどから出ているめあてをどのように子どもたちとつくっていくのかという力、指導力ということが重要なかぎを握っているのが三省堂ではないかと思う。

光村図書は、読むときには3段階で読み込むという特徴が示されている。単元自体も分けられており、本単元であるとか補習、練習教材、コラムなどが準備されている。1つ特徴として読みごたえのある作品が多いこともある。3年生には森鷗外の「高瀬舟」が出ている。結局子どもたちが教材を読み込むにしろ、これからも読書、本に親しんでいこうとするときに、しっかりと内容から自分自身の生き方に反映していくための何か内容を含んでいる教材というものがやはり中学校の子どもたちには必要ではないだろうかと考える。そういうことから考えれば、読みごたえのあるのは光村図書ではないかと思った。

委員長
東條委員

- 少し光村図書に傾いたということか。
- 中学校の国語の教科書は読み物としてもおもしろいので、全部通して読み入ってしまうようなものが結構あり、そういう意味ではおもしろい作業であった。例えば、東京書籍は、資料にも少し書かれているが、言葉の力を借りて感性を磨くとか論理的思考力というのを鍛えるという意図でつくられているのだろうなということが比較的よくわかる内容になっている。各社がこういうことを考えながらつくったということが割と読み取りやすいものであった。

学校図書も新しい学力観の中で何がどういうふうに表現されているのかというのを答えられるような力をつけたいという意図があると思うので、それはそういう気持ちでつくられたものだということがよくわかった。

それから、三省堂は、先ほど質問もしたが、小・中の接続ということを相当意識してつくっているのだろうなということが分かる。他社でもいくらか感じるが、比較した場合によりそれがわかりやすいものだと感じた。教育出版も同様の工夫がされていると感じた。

光村図書は、割と自分たちで勉強ができる子どもたちによいという感じがする。ここにも自分たちで学習を深めていくことができるようになってきていると書いてあるので、そういう意味では、自立的な学習態度がある程度ある子どもにはとても向くという感じがした。

それぞれ特徴があり、工夫してつくられているということがよくわかるものだったが、先ほどから話に出ているように、岡山市の子どもへの課題に対応

委員長

していくことを考えると、やはり小学校で基本的な語彙が乏しいとか、知っていなくてはならないことが十分身につけていないというようなことが考えられる。自分自身できちんと学べる子どもがいるにはいるが、そういう子どもばかりではないという現実を考えると、やはりある程度ガイド的な要素があるほうがよいのだろうと感じた。結論からいうと、私は東京書籍も結構おもしろいと思ったのだが、三省堂と光村図書というのは、それぞれやはり特徴を持ちながら、三省堂は割と具体的な学び方に重点を置いたつくりになっていて、光村図書は自分で学んでいけるということに重点を置いたつくりになっているというように読み取った。岡山市の課題からみると三省堂が少し子どもの課題に対応しているという印象で読んだ。

○ 私も最終的に3社ぐらいにしぼった。光村図書と三省堂と東京書籍である。どの教科書会社もやはり読みごたえのある小説や随筆を取り入れているので、どれが採用されても岡山の子どもたちにとってよいのではないかと考えた。ただ、岡山の子どもの課題に書いてある伝えたい内容を正確に聞き取ったり、文章の内容や問題の意図を正確に読み取ったりする読解に関する部分についてわかりやすく段階的に読み方を学ぶことができそうなのが三省堂かなという感じがした。つけたい力をきっちりと段階を追って書いているように思った。領域別の教材一覧も、つけたい力が一目瞭然であるので、教員にとっても使いやすいかなという感じがした。

扱っている作品がどこもおもしろいが、三省堂は岡山出身のあさのあつこさんの作品が入っている。同じように東京書籍は小川洋子さんが入っている。どのように取り上げられているのかという目でも見た。郷土の人たちを感じることができる教材があれば、1年間の学びの中でよいのではないかと感じた。

光村図書には、先ほどから話題に出ている読みごたえのある作品が数多く掲載されている。ただ、私が、何年間もこの「走れメロス」が掲載されているのを見て、今の子どもたちがこの熱い友情を本当にキャッチできるのか、道徳の教材ではないので、文学作品としてきちんと読解できればよいが、少し違う方角から見ると作品も欲しいのかなという気がした。ただ、先日芥川賞を受賞した又吉さんのように、教科書に載っていた太宰さんや芥川さんの作品を見て感じ入って次々にほかの作品を読んでいくような子どもたちもいるわけであるから、やはり読みごたえがある作品は古典のものを載せるというのも大事なのではないかと思った。自分自身も中学生のときに入り込んでいたなという感じで捉えた。

光村図書のよいところは、「走れメロス」もあるが、「おとなになれなかった弟たちに」の米倉齊加年さんの作品など生き方に迫るような作品が結構多いのではないかと思った。もちろん三省堂も生き方に迫るところでは随筆として向田邦子さんの「字のないはがき」を取り上げているので、子どもたちの心に訴えかけるような、ただ単に国語の読解だけではない部分も扱っているような感じがした。東京書籍は学びの扉できちんと手順を示しており、国語の力をつけるということでは、3社の中では三省堂がはっきりしているように感じた。

個人的には、内容の部分ではなく巻末で私がよいなと思ったのは、光村図書の色の使い方である。ここにあるように日本の文化は奥が深いということを知ることができる。色が同じ赤っぽい色でもこれだけの言葉があるということを知るのには、やはり光村図書の長い歴史の中で深いものを持っているのだろうな、伝えたいのだろうなという感じがした。ただ、学力をつけるということで考えたときには、三省堂が一番適しているのではないかという感

	<p>じがした。</p> <p>一通り国語についてはご意見いただいたが、つけ加えはないか。</p>
<p>教育長 塩田委員</p>	<p>○ 三省堂はある程度シンプル。めあてを持ちやすいようになっている。光村図書は、ある程度教師の力というのを試されるものになっている。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 導入の部分であるとか、それから続けてみようと思えるような、今必要なアクティブラーニングやポートフォリオのように何か自分が自主的におこなったものが足跡として残るといった導入の仕方はすごくうまいと思えた。</p>
<p>教育長 委員長</p>	<p>○ いずれも甲乙つけがたい教科書である。結局は教科書で教えるわけであるから。</p>
<p>教育長 委員長</p>	<p>○ 国語は特に。その中に書かれているもので、学習している展開が多い。</p>
<p>東條委員</p>	<p>○ 教科書を教えるわけではないが、今回は岡山市の子どもの教育課題というのをはっきりと出しているの、それに近づく教科書ということは大きな視点の一つであると思う。</p>
<p>東條委員</p>	<p>○ 先生の力が同じであるとする、子どもにとってどちらが学びやすいかという話になのだろうと思う。三省堂は、学び方が系統的にわかりやすくなっているということがあり、子どもにとっての使いやすさ、ガイドとしての使いやすさということは確かにありそうである。光村図書のほうが自由度が高いためすごく深まりやすいものでもあるだろうなという気がする。どちらがよいかと言われると困ってきたという感じがある。東京書籍では、自分としても好きな重松清さんの作品があるので、よいなと思ったりもした。郷土の作品ということは、これ見るときには考えていなかったが、そういう見方で見ると東京書籍も悪くないなと思ったりした。ほぼ均等になってきて困っている。ただ、例えば先生たちの構成比でいうと、中学校は講師の先生が15%ぐらいだったか。もう少し低かったか。</p>
<p>指導課長 東條委員</p>	<p>○ その前後である。</p>
<p>指導課長 東條委員</p>	<p>○ 割と若手の先生が多いということを見ると、そういう先生に使いやすいということも考えたほうがよいのか。力量を問われると教育長がいわれたが、そういうことで言うと、信頼してないわけではないが年齢構成から見ると、やはりいずれの先生でも扱いやすいということがよいように感じる。そういうことも考えてみると、やはり三省堂がわかりやすいのかと思ったりする。</p>
<p>委員長 審議監(学校教育担当) 教育長</p>	<p>○ 現在の教員の年齢構成を教えてください。どこの年齢層が一番多いのか。</p>
<p>委員長 審議監(学校教育担当)</p>	<p>○ 一番多いのは50代の半ば前ぐらいである。</p>
<p>委員長 審議監(学校教育担当)</p>	<p>○ 年齢構成だけからいえばそうかもしれないが、若手も増えてきているのではないか。</p>
<p>委員長 審議監(学校教育担当)</p>	<p>○ 年々新採用は増えているのでは。</p>
<p>委員長 審議監(学校教育担当)</p>	<p>○ 新採用は一時期少なかったが、今はある程度は確保できるようになっている。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 講師が多いということ、それだけが理由であるというわけにはいかないが、どの先生でも教えやすいというのはポイントの一つになるように思う。自由度が高いと、本当に何でもできるおもしろさは出てくると思うが、子どもたちの力をつけるためにどの中学校でもどの先生でもある程度指導できるということであれば、今まで委員の方々が言われたことを集約してみると、三省堂が多いように思う。</p>
<p>委員長 審議監(学校教育担当)</p>	<p>○ 講師が多いということ、それだけが理由であるというわけにはいかないが、どの先生でも教えやすいというのはポイントの一つになるように思う。自由度が高いと、本当に何でもできるおもしろさは出てくると思うが、子どもたちの力をつけるためにどの中学校でもどの先生でもある程度指導できるということであれば、今まで委員の方々が言われたことを集約してみると、三省堂が多いように思う。</p>
<p>委員長 審議監(学校教育担当)</p>	<p>○ 講師が多いということ、それだけが理由であるというわけにはいかないが、どの先生でも教えやすいというのはポイントの一つになるように思う。自由度が高いと、本当に何でもできるおもしろさは出てくると思うが、子どもたちの力をつけるためにどの中学校でもどの先生でもある程度指導できるということであれば、今まで委員の方々が言われたことを集約してみると、三省堂が多いように思う。</p>
<p>委員長 審議監(学校教育担当)</p>	<p>○ 講師が多いということ、それだけが理由であるというわけにはいかないが、どの先生でも教えやすいというのはポイントの一つになるように思う。自由度が高いと、本当に何でもできるおもしろさは出てくると思うが、子どもたちの力をつけるためにどの中学校でもどの先生でもある程度指導できるということであれば、今まで委員の方々が言われたことを集約してみると、三省堂が多いように思う。</p>
<p>委員長 審議監(学校教育担当)</p>	<p>○ 講師が多いということ、それだけが理由であるというわけにはいかないが、どの先生でも教えやすいというのはポイントの一つになるように思う。自由度が高いと、本当に何でもできるおもしろさは出てくると思うが、子どもたちの力をつけるためにどの中学校でもどの先生でもある程度指導できるということであれば、今まで委員の方々が言われたことを集約してみると、三省堂が多いように思う。</p>
<p>委員長 審議監(学校教育担当)</p>	<p>○ 講師が多いということ、それだけが理由であるというわけにはいかないが、どの先生でも教えやすいというのはポイントの一つになるように思う。自由度が高いと、本当に何でもできるおもしろさは出てくると思うが、子どもたちの力をつけるためにどの中学校でもどの先生でもある程度指導できるということであれば、今まで委員の方々が言われたことを集約してみると、三省堂が多いように思う。</p>
<p>委員長 審議監(学校教育担当)</p>	<p>○ 講師が多いということ、それだけが理由であるというわけにはいかないが、どの先生でも教えやすいというのはポイントの一つになるように思う。自由度が高いと、本当に何でもできるおもしろさは出てくると思うが、子どもたちの力をつけるためにどの中学校でもどの先生でもある程度指導できるということであれば、今まで委員の方々が言われたことを集約してみると、三省堂が多いように思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 読書というのを考えたときに、やはりそこから感じ取れるものが何なのかということ、次の読書につながっていくということが言えるのではないかと。学習の上では、三省堂のほうが易しい展開になっており、学習を進めていく上ではよいのではないかと。次の読書活動にどうつないでいくのかと</p>

<p>委員長</p>	<p>ということは、そこからは三省堂の課題になってくるのではないかと思います。それは教師がどうつないでいくかということになる。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 教科書に載っていることだけで終わったのでは、つながらないということは起こりそうである。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 国語に意欲的に学習に取り組む子どもはある程度興味を持てば、放っておいても読書をしたり自分でどんどん学習をしたりしていく。今の岡山の課題としては、そうではない子どもにある程度焦点を絞り、こぼれていかないようにきちんと指導していくということがやはり大事なのではないか。</p>
<p>全委員 委員長 指導課課長補佐</p>	<p>○ そういったところでつきたい力がはっきりしていることは子どもにもわかりやすいし先生方にもわかりやすい。しかし、その後、発展的なことに関しては、今教育長が言われたような課題を考えながら学習を進めていかなければ、教科書で終わったのではいけないのではないか。確かに、光村図書の教材はいずれも読みごたえがあるので、それから読書に発展していくということは十分に考えることができると思う。</p> <p>いかがか。</p> <p>○ <なし></p> <p>○ 教育委員の中では、三省堂に教科書を決めたいと思う。</p> <p>○ 今の議論をお聞きした上で、理由を3点にまとめてみたがいかがか。</p> <p>1点目は、巻頭の領域別教材一覧や巻末の読み方を学ぼうの一覧表をはじめ生徒につきたい力を段階的につけられるよう工夫されている点である。2点目は、めあての部分がわかりやすく、学ぶべきところを生徒と教師が共有できるよう工夫されているという塩田委員のご意見。それから3点目が、読書の習慣、活字を読むことに親しむため、教材が適切に配列されており、本を読んでいこうという思いになるよう工夫されているという奥津委員のご指摘の点、この3点でいかがか。</p>
<p>委員長 全委員 委員長</p>	<p>○ いかがか。</p> <p>○ <承認></p> <p>○ 採択理由については先ほどの3点ということで、国語に関しては三省堂ということでよろしく願います。</p>
<p>指導課長</p>	<p>○ ここで、ご配慮いただきたい点を確認したいが、採択結果及び理由については、私どもは積極的には9月1日以降、全ての採択地区での採択が終わった後にと考えているので、そのあたりを今日ご参会の方にご配慮いただきたいということをお伝え願いたい、いかがか。</p>
<p>委員長 教育長</p>	<p>○ 委員、教育長いかがか。</p> <p>○ 採択の結果は9月1日以降オープンにすることが方針として出されている。今日はここで採択をしているため、当然参加されている方も聞かれれば結果がわかるが、配慮いただきたいと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 地区によってはまだ採択していないところもあるので、よろしく願います。</p> <p>書写の部についてすすめていくこととする。</p>
<p>教育研究研修センター 指導主査</p>	<p>○ 書写について説明する。</p> <p>岡山市の子どもの書写における課題については、特に漢字、仮名の字形を整えて文字を正しく書こうとする意欲を持ちにくいことと曲線が連続する文字を書く機会が減ったこともあり、漢字の行書及びそれに調和した仮名を書く際、曲線を表現するといったことにある。そこで、このことに着目をして書写の5社の教科書の特徴を伝えさせていただく。</p> <p>まず、東京書籍である。人名で使われる漢字の行書体が示されており、生徒が意欲を持って自身の名前を行書で書く際の参考になるよう工夫されて</p>

いるといった意見が出ている。

次に、学校図書である。書写が掲載されていることで文字を書くイメージを膨らませながら主体的に書くことができるよう配慮されているといった意見が出た。

次に、三省堂である。行書の筆脈について筆の動きがわかりやすく青線で示されており、生徒が練習する際の参考になるよう工夫されているといった意見が出た。

次に、教育出版である。生かそうというところでは、文学作品の一部を硬筆で書き込むことができるよう工夫されているといった意見が出た。

次に、光村図書である。漢字の楷書に仮名を交えて書く学習内容が見開きでまとめられていたり、行書と楷書を比較しやすい構成にしていたりするなど、学習を効果的に進められるよう工夫されているといった意見が出た。

以上で説明を終わらせていただく。

- 書写の部で意見を伺いたい。
- 私は光村図書がよいと思った。行書に関して言えば、何のために書くのか、誰に向けて書くのかという使い分けをしているという点と、コラムの取り上げ方をおもしろく読ませていただいた。

岡山の課題に曲線を表現することに課題があるということが入っていたが、光村図書は平仮名の筆遣いをほかの教科書よりポイントを示してわかりやすく紹介していた印象がある。また、日常使う書式を取り上げて、書写の知識や技能を生かした生活の場面に活用できるようなものも取り上げていた。

- 光村図書ということか。
- そうである。
- 今、岡山市の子どもの課題として3点上がっているが、いずれもどの教科書会社も行書体や楷書体あるいは仮名について意欲を持って書くことができるような工夫をしていることが見てとれた。ただ、光村図書と三省堂が他のものに比べページ数がやや少ないと思う。

比べるとよくわかる。少しこちらのものが薄い。光村図書と三省堂については適当なページ数になっている。

先ほども少しふれられたが、三省堂には筆の動きがわかるように青線が使われている。筆の筆跡とあるいは筆脈というのか、そういったものがわかりやすく表現されている。

一方、光村図書では、行書と楷書が比較でき、学習効果が深められるように工夫をされている。これらがその課題の2にあらわれてくる岡山市の子どもに対する対応と言えるのではないかと思う。

東京書籍については、人名に使われる行書体というのが最後にまとめて出ていたと思うが、これらも自分の名前を書くときに参考にしながら書いていこうということになれば、意欲的な学習につながるような工夫にもなっているように思った。

光村図書の最後の裏表紙には谷川俊太郎さんが手書きの力という言葉で、活字ではなく手で書くことのよさというものをしっかり訴える内容があり、手書きのよさというのを感じ取りながら自分自身も書いていく活動につながると思う。そういうことから考えると、やはり三省堂、光村図書ということになる。どちらかと言われれば光村図書のほうを押ししたい。

- 質問を1つしたい。岡山市の子どもの課題の中で、曲線が連続する文字を書く機会が減ったというのは、学習上どういうことが減ったからだといえるのか。

委員長
塩田委員

委員長
塩田委員
教育長

東條委員

<p>教育研究研修センター 指導主査 委員長 教育研究研修センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 機会が減ったということではなく、英語の筆記体の場面が学習上、現在では減っており曲線のあらわし方ということでの意見が出ていた。 ○ 現在書写の時間はどのぐらいか。 ○ 書写の年間指導時間については、学習指導要領の解説国語編の中に示されており、配当する授業時数としては、第1学年及び第2学年では年間20単位時間程度と示されている。第3学年については年間10単位時間程度と示されている。
<p>東條委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各社の教科書に関して言うと、東京書籍は保護者の皆さんへというメッセージがあると書かれており、岡山市が地域と協力して教育を進めていくという考えの中では、こういうメッセージがあるのは理にかなっている。 学校図書も基本的で、伝統的かつ昔から使われている教材をきちんと取り上げており、よいという感じがした。 三省堂は、さきほどの曲線を表現することに課題があるということと、もう一つの、字の形を整えて書くときに、やはり筆運びというものを知らないといけないので、そういったことに配慮しながら字の連続というがわかりやすく示されているという点で魅力的である。このようになっているのかということが伝わりやすい工夫がなされていた。 それから、教育出版は、こういうことが割と身近なことなのだとということをして文学作品を使って体験させるというおもしろい試みをされていると思った。 光村図書に関しては、開くとわかるが、行書と楷書がかなりはっきりと対比されているので、このように字を崩していくのだなということが割と具体的な例を使ってわかりやすく書かれている。いわゆる崩し文字というものに対して子どもたちが関心を持ちやすい構造になっており、それぞれよい点があると思った。 子どもの課題と対比させるということで考えてみると、先ほど少し触れたが、三省堂は筆脈あるいは筆運びをきちんと教えようとしていることが明確に出ているので、曲線を書くということが苦手な子どもたちがその練習をするためにはよい内容なのではないかと思った。一方で、実際に字を書くときに、楷書ばかりでなく行書に親しむということで考えると、光村図書もよいと思った。ただ、やはり曲線とか字の形を整えるということは、書写あるいは文字を書く基本の部分であるので、形を考えて全体のバランスを考えながら書くことを教えるのに三省堂は長けていると思われる。この5つの中ではやや三省堂がよいと思っている。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三省堂ということであるか。 私は3社で見た。光村図書と三省堂と教育出版である。その他のものももちろんよいが、その3社で比べたときに、岡山市の子どもたちの課題は単に岡山市だけではなく、全国の子どもたちの課題ではないかと思った。学力状況調査で図ることができるものではないし、手書きの部分が少なくなっている日本の現状からすると共通していると思う。手書きのよさをアピールしている教科書は、とてもありがたいと思った。 例えば、三省堂では、文字の変遷や科学では表現できないところについてパソコンなどいろいろな道具がある中で、ステーブ・ジョブズのカリグラフィーを扱っている。最終的にはパソコンになるのであろうが、そこから興味を持たせることで、手書きのよさを伝えていた。 光村図書は、先ほど教育長が言われたように、手書きのよさを巻末で谷川俊太郎さんの説得力のある言葉で示されていた。ただ、ここで少し気になったのは、良寛和尚の掛け軸あるいは書の複製を引用されていたこと。余り詳

<p>奥津委員</p>	<p>しくはないが、良寛はすごい書家であったと聞いている。あのような子どもらしい字を書いている、基本的なことは勉強していて、最終的に人間性が出ているということ。そこで、谷川さんが引用されていることに疑問を感じつつも表面的に読むと、やはり手書きのよさが伝わってくる巻末であると感じた。</p> <p>教育出版については、書道の時間が多ければ教育出版の教科書が一番よいのではないかという感じがした。書く部分お手本の部分が多く、本格的な書が学べるような形になっていると思う。ただ、現状では時間が少なかったり、本格的に親しむよりも実用的な手書きのよさであるとか、学習したことを生活に生かす教科であるということを考えたりした場合には光村図書が一番教材としてはよいのではないかと感じた。</p> <p>○ 書写に関しては、多少変わった見方をしてみた。社会に出てあまり自分で字を書く、特に筆を持って書くようなことはほとんどない。ある一定の職業の人を除けば。そのような中で考えたときに、書写とか書道というのは何なのかと。やはり1つは文化とか伝統とかそういうものを学ぶということ。他には美術的な面、鑑賞したり自分で書いたりする面もあるのかと。もちろんきれいな字が書けるとか、何年前かにテレビでも楷書がブームになったこともあったように、一つの文化的な側面であったり、教養、マナーといった面で身につけたりする必要があると思う。一方では全員が必ずできるようにならなくてはいけないというほどの必要性が高いものでもないのかなとも思う。小学校から継続して学んでいるなかで、中学校の授業で学ぶことによってそれをきっかけにマナーを身につけ、上達したいと思う人はどんどん経験を積みばよい。あまり興味が持てない人は、いずれにせよ社会に出たとしてどこまで使うかという実用性あるいは必要性を感じないのであれば仕方がない気もする。できるだけわかりやすくシンプルなものの方がよいのではないかと思った。</p> <p>そういった意味では、光村図書が一番薄くて、学年ごとに分かれているところもかなり少ないのではないかと。その中で、行書と楷書の違いなどは並べて書いてあるので、最低限のところは押さえながらもかなり学年ごとの部分はシンプルで簡単な形になっていてよいと感じた。他にも資料編では応用的なことも書いてあるが、必要に応じて適宜使うという方法をとればよいと思う。詳しいとか中身が充実しているという観点よりも、学びやすさや親しみやすさということから光村図書がよいのではないかと思った。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 書写については光村図書が多いようだが、他に聞いておきたいことはないか。先ほどから厚さが話題になっているが、関係があるのでは。使い切れるかどうかとか。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 先ほどの報告があったように1・2年生は20時間、3年は10時間ということ。</p>
<p>委員長 教育長</p>	<p>○ 相当少ない。</p> <p>○ ボリューム的にあつたらそれだけ使うのだろうが、多分残すこともあるのではないかと思う。やはりページ数からいえば、量的にもさきほど出た2社が適当なのではないかと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ これ以外にも学校では課題として、正月の書き初めなどに取り組むことがあるが、プラスアルファの時間は家庭学習ということもあるかと思う。現在では扱う時間が確かに少ない。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 子どもの課題を踏まえて言えば、三省堂は曲線を意識した書き方、光村図書は楷書と行書と比較していくような形で学ばせようとしている。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 行書をきちんと教えてもらう機会はこの場面しかないのか。家庭では行書</p>

<p>教育長 東條委員</p>	<p>や楷書といったことは話題にもならない。</p> <p>○ 習いに行っている子どもはわかっているだろうが。</p> <p>○ 見慣れていないので、大学生などからは、少し崩して書くと汚い字だと言われる。</p> <p>こういう書き方であると言っても知らないということがあり、なじみがないのだろうと。でも、楷書ではきれいな字を書く子が多いのだが。やはり、文化という側面から言うと少し薄くなってきているのかという感じがする。</p>
<p>塩田委員</p> <p>委員長 塩田委員 委員長</p>	<p>○ そういう意味では、光村図書は使い分けを考えるとということで、グループワークでどちらが適しているか理由もあわせて考えるというように、自分たちで考えさせるようなステップを設けているところがあった。</p> <p>○ TPOに合わせてということか。</p> <p>○ どういう答えを出すのかわからないが。よいことである。</p> <p>○ さらに先ほど言われた行書と楷書の書く筆の運びがきちんと載っているということは、子どもたちにとってわかりやすいはずである。</p> <p>では書写は光村図書ということでよろしいか。</p>
<p>全委員 指導課課長補佐</p>	<p>○ <承認></p> <p>○ 理由を3点にまとめさせていただく。1点目、何のために書くか、誰に向けて書くかが明確になっている点。2点目、谷川俊太郎氏の手書きのよさを伝えるメッセージが掲載されているなど、書こうという意欲を持って学習できるよう配慮されている点。3点目は、平仮名の筆遣いのポイントが示され、わかりやすく表現されていたり、行書と楷書を比較しやすいように構成されていたりするなど、学習を効果的に進められるよう工夫されている、この3点でいかがか。</p>
<p>委員長 全委員 委員長 教育研究研修センター 指導副主査</p>	<p>○ よろしいか。</p> <p>○ <承認></p> <p>では、続いて社会の地理に移りたいと思う。</p> <p>○ 社会、地理的分野について説明する。</p> <p>岡山市の子どもの社会、地理的分野における課題は、特に例えばEU加盟国では政治、経済的統合が人々の生活にどのような影響を与えているかという問いに対し、その問いを正確に理解し、EU域内の人々の生活への影響を他者に的確にわかりやすく伝えることが苦手であったというところにある。そこで、他者に的確にわかりやすく伝えることに着目して、社会、地理的分野、4社の教科書の特徴を伝える。</p>
<p>教育長</p>	<p>まず、東京書籍である。巻末の統計資料では、世界の主な国についても都道府県と同様に詳しいグラフなどを使ってデータが記載されているため、生徒が統計資料を参考にしながら学ぶことができるようになっているという意見が出た。</p> <p>次に、教育出版である。振り返る、読み解こうのコーナーや章、節末の学習のまとめと表現のページにおいて、言語活動に取り組む際の視点や方法が学習内容を踏まえて具体的に例示されているといった意見が出た。</p> <p>次に、帝国書院である。確認しよう、説明しようのコーナーが設けられており、思考力、判断力、表現力が高まるよう工夫されているという意見が出た。</p> <p>次に、日本文教出版である。各単元の終末には振り返りのページがあり、チェックボックスで自分の言葉で意味を説明することができるよう配慮されているという意見が出た。</p> <p>○ いずれの出版社も資料集がそれぞれ巻末のあたりに示されているが、東京書籍の場合は世界の主な国と同様に都道府県についても詳しいデータが示</p>

されている。したがって、これが先ほどの岡山市の子どもたちの苦手なところである、資料それぞれを見比べながら、関連づけて考えるということについて、自分自身で学習を深めていくことにつながっていくと思われる。気になることとしては、用語解説がいずれの教科書も載っているが、東京書籍は用語が後ろにまとめてある。学習の過程でそれぞれ書いてある例もあるが、この東京書籍のようにまとめて書いてあると多少読みづらい。もう一度そこを見ながら学習をすることになるのだろうかと思った。

教育出版も、学習したことの振り返り、ステップワン、ステップツーと整理ができて確認が絶えず繰り返しできるような構成になっているように思った。それが、岡山市の子どもの課題である的確にわかりやすく伝えるということに対して、確認しながらできるようになってくるのだろうかと思った。

帝国書院は、基礎基本の部分をすごく大切にしている。技能を磨くというところが25カ所あった。絶えず基礎基本の部分に立ち返りながら学習を進めていくことができるようになっていくと思った。さらには先ほども特徴の中で出てきたが、確認しよう、説明しようものが必ず右下のところに設けられていて、子どもたちが確認をすることによって、次の課題への関連づけをどう考えていけばよいのかということを確認してくれる展開になっているのではないかと思う。

それから、日本文教出版は、文末あるいは単元末に振り返りの場面が用意されている。ある面では、自分自身の生活やいかに他に伝えていけばよいのかということを確認しながら学習をすることができるようになっていくと思う。

それぞれのよさを言ったが、やはり一推しは帝国書院だろうと思う。先ほど言った右下の振り返りのこと、基礎基本の定着をしっかりと図ろうとしていること、用語についての解説が文章だけではなく、写真もその都度掲載されているので、わかりやすく学習が展開できるような工夫がなされているという感想である。

○ 一推しは帝国書院ということでよいか。

○ 3つに絞った後、話をしたほうが早いと思う。

まず、東京書籍は、単元の最初のところで小学校ではこういうことをやったなというようなことを、キーワードだけが幾つか、5つぐらいだったか挙げていて、小学校との接続、小学校での既習事項を確認しながら勉強を始める構造になっている。小・中接続という意味合いからはとても使いやすいし、子どももこういうことだったのかと系統性を意識させるためによいように感じた。

帝国書院は先ほど教育長もいわれたが、割と基本的な学習に適したテキストであるという感じがする。また、公民との接続であるとか、ESDに対する意識が割とあるように感じた。そういう点では、ESDなど、岡山市が進めている教育の内容とマッチしているのではないかと。岡山市の教育施策とうまく合致しているような感じがする。

日本文教出版も同じように公民との接続がスムーズに行くような配慮が随所に読み取れる。ただ、チェックボックスの中で、自分の言葉で意味を説明するというのがあるが、さきほど国語のところで指摘されていたように、基本語や語彙がそもそも少ない状態では、それができるのかという感じもあった。そのようなことを考えていくと、東京書籍か帝国書院という感じがするが、私はどちらかというところ東京書籍のほうが小学校との学びの連続性という点でよいのではないかと感じている。帝国書院も悪くはないが、やや東京書籍のほうがよいと思った。

委員長
東條委員

<p>委員長</p>	<p>○ 2社で比較した。他の教科書会社のものも目を通した。帝国書院と東京書籍であるが、一番大きな違いは、帝国書院の方がこれからの探究型の学習や記述型の学習に合っているのではないかと感じた。例えば、73ページである。アフリカ州で、いずれの教科書にも、〇〇州の学習を振り返ろうというシリーズがあるが、東京書籍はワーク的な感じではないかと思う。今までの問題集であるとか、学んで知識として得たことを記入しようという形が前面に出ているような感じがした。同じアフリカ州でも学習を振り返ろうというところは、生徒に主体的な考えが出せるような余地が残っているのではないかと感じた。同じような部分が他にも何点かあった。岡山の子どもたちに考える力や資料から読み取る力を身につけさせたいと考えたときには帝国書院のほうがよいかと。自分で主題を設定してレポートを書いたり考えたりすることにもつながりやすいかなという感じがしたので、帝国書院としたい。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 東京書籍と帝国書院のいずれかというふうに思った。東京書籍は欄外あるいは本文の両端にいろいろとデータなどが掲載されており、非常に充実していると思った。帝国書院もそのような感じであるが、学習課題と確認しようという部分の対応関係が、ほかの教科書にも同じようなことがあるが、一番しっかりしているのではないかという印象であった。先ほどからもあるように、地理のデータをもとに技能を磨くことやいろいろな調べ方を生徒自身に考えさせるという姿勢があると思った。いずれもよいと思うが、やや帝国書院ではないかというところである。</p>
<p>委員長 塩田委員</p>	<p>○ やや帝国書院であるか。 ○ 私は少し違った観点から見た。岡山市がどのように取り上げられているのかという観点で読んだ。東京書籍は、岡山市は政令指定都市という形で記述があった。日本文教出版も政令指定都市ということで紹介をしていたが、帝国書院は岡山市の記述はあったが政令市という記載はなかった。教育出版は残念ながら岡山市、岡山県の記載がなかった。地理の学習で岡山市が出てくると、生徒たちが少しうれしい気持ちになるのではないかということで、やはり岡山市が記述されているものを基本的に考えていきたいと思った。 そういった観点で読んだときに、やはり東京書籍、帝国書院かなというふうに思った。東京書籍は地球にアクセスというのがあり、コラム的な読み物であるが、それが結構おもしろい。帝国書院は、先ほど東條委員も言われたように、羅針盤のところで共生、環境、防災などE S Dを見据えた内容になっており、岡山市としては昨年のE S Dの世界会議からこれらを子どもたちにどんどん広げていくという意味では、帝国書院を採用していきたい。他にも地域を探ろうというのがあり、その地域の特徴的な取組を具体的に紹介しており、そういったところから自分たちの住んでいる地域を探ろうということに導入できるのではないかと考えた。</p>
<p>委員長 塩田委員 委員長 東條委員</p>	<p>○ どちらかといえば帝国書院であるか。 ○ そうである。 ○ 何か聞いておきたいことはないか。 ○ 小・中の接続ということで実際の授業の中で、小学校のときにこのように学習したという既習事項の確認をていねいにするのか。どの程度行うのか、先生次第なのか。</p>
<p>委員長 教育研修センター 指導副主査 東條委員</p>	<p>○ どうか。 ○ まず、単元に入るときに、学習する該当ページの内容を見て、どのようなことを小学校で学んだのかということ子どもたちに確認して本文に入るようにしている。 ○ そのような進め方が標準的だということか。</p>

<p>教育研究研修センター 指導副主査 東條委員</p>	<p>○ そうである。</p> <p>○ そうであれば、いずれの教科書になってもその学習活動を行うということか。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 先ほどから話題になっている学習指導要領に掲載されている内容は必ず学習しているということであり、言いかえれば最低基準ということであるから、発展的な学習をいろいろ積み重ねているのであろう。いかがか。 では、地理は今までの意見から、帝国書院ということによいか。</p>
<p>全委員 指導課課長補佐</p>	<p>○ <承認></p> <p>○ 3点にまとめさせていただく。1点目、技能を磨くコーナーが25カ所配置され、地理的分野の基礎的、基本的な技能を習得できるようになっている点。2点目は、本文の右下に確認しよう、説明しようのコーナーが設けられており、思考力、判断力、表現力が高まるよう工夫されている点。3点目、公民の学習との接続に配慮されており、また共生、環境、防災などESDとのつながりが示されている点、この3点でいかがか。</p>
<p>委員長 全委員 委員長</p>	<p>○ よいか。</p> <p>○ <承認></p> <p>○ 続いて、社会の歴史的分野へ行きたいと思う。</p> <p>○ 説明をお願いします。</p>
<p>指導課指導副主査</p>	<p>○ 社会科、歴史的分野について説明する。 岡山市の子どもの歴史における課題は、特に歴史的事象を関連づけて読み解いたり、複数の資料からその意味することを感じ取りながら歴史的な流れを捉えたりするといった大きな流れの中で考えることができにくいことにある。そこで、歴史を大きな流れの中で捉えることに着目して歴史的分野の8社の教科書の特徴をお伝えする。 まず、東京書籍である。見開きページ左下の年表で歴史の大きな流れが理解できるよう工夫されているとともに、その時間での学習のめあてに対して自分なりのまとめができるようになっているといった意見が出た。 次に、教育出版である。時代の特色を捉えた後、次の時代につなぐために図版を見たり比較したりするなど、次の時代への見通しを持つことができるようになっているという意見が出た。 次に、清水書院である。人物作品では、人物の絵が添えられており、歴史の学習の中で特に押さえない人物について理解しやすいようになっているといった意見が出た。 次に、帝国書院である。トライアル歴史のコーナーでは、文字資料だけでなく地図や写真など複数の資料を読み取って広い視点で歴史のおもしろさを考えることができるよう工夫されているといった意見が出た。 次に、日本文教出版である。文化財を守り伝える仕事の様子が取り上げられており、過去の伝統文化を未来に伝えていく大切さを理解できるよう工夫されているという意見が出た。 次に、自由社である。各時代のまとめでは、キャラクターが問答して時代の特色に結びつくよう構成されており、時代の比較や人物の比較ができるよう工夫されているといった意見が出た。 次に、育鵬社である。各時代の冒頭に鳥の目で見ると虫の目で見るといった時代の特色を取り上げたページが配置されており、各時代の導入に生かせるよう工夫されているという意見が出た。 次に、学び舎である。各章の終わりには振り返るという内容のページが掲載されており、章のまとめごと学習したことの確認ができるよう工夫さ</p>

<p>東條委員</p>	<p>れているという意見が出た。</p> <p>○ 送られてきた資料や実際の教科書を見て、2、3に絞って意見をいう。</p> <p>まず、よいと思ったのは、東京書籍の教科書である。岡山市の子どもたちの特徴にも書かれているが、中学校で学ぶ内容というのは、歴史の大きな流れをつかむことであると思う。年表でその部分がわかりやすくまとめてあるということがいえる。また先ほどから繰り返し言っているように、小・中連携というものが内容からはっきりと読み取れ、系統性が明確になっているという点で東京書籍の教科書がよいと思った。</p> <p>もう一つは帝国書院である。岡山市の子どもの特徴として、資料の抜き出しはできるが、その資料の意味を理解したり、歴史的な流れを捉えることができなかつたりするということが課題になっている。抜き出しはできるのであれば、いろいろな種類の資料を準備し、抜き出せるような状況を整えることによって、そこから先のことを教えていくということが課題になるので、資料がそろっている帝国書院がよいと思った。それから、歴史に関しては少し多面的に、政治史だけではなく、例えば経済史や社会史なども、多くではないが触れてあり、歴史にもさまざまな面があるのだということを示唆的に記述されているところがよいと思った。</p> <p>それからもう一社、日本文教出版に関しては、先ほど少し言ったように、全体的な大きな流れが捉えやすくなっているという印象があった。それから地域に関係があるということで、身近な地域の調べ方の参考事例が載せられている。地域を振り返りながら歴史に親しみをもって取り組むというのもよいのかと。東京書籍、帝国書院あるいは日本文教出版がよいと思った。岡山市の子どもの特徴である情報を抜き出すことのできる力というものを生かすことができる教科書ということで言うと、帝国書院がやや勝っているという印象を受ける。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 私も上位2社で話をしたいと思う。ほかの会社のものも読んだが、読み物としてとてもおもしろいものがあった。読み物資料であったら楽しめるのではないかなと。学校で子どもたちが何かの力をつけるであるとか調べ学習をするということであれば、書き過ぎていたり、結論を出していたりする教科書が何社かあった。やはり調べ学習や大局的に歴史を捉えてどう考えるかという学習に結びつくような教科書がよいと思い検討した。</p> <p>その結果、いずれも甲乙つけがたいと思えるのが、帝国書院と東京書籍である。東京書籍の工夫は、例えば子どもたちの調べ学習を教師がどのように仕組んでいけばよいのかという点がかなり工夫されている。資料などは平易に表されているものの、それを主体的な学びにつなげるような工夫がデザインされているので、指導する側としても使いやすいのではないかなと思う。歴史に関して多面的に捉えることで、このような考えもあればあのような考えもあるということにつながるのではないかなと思った。</p> <p>帝国書院であるが、主体的な調べ方に関してさらに踏み込んでいるなという感じがした。例えば大きなイラスト画から何かを考えるという活動は幅が広いものであるが、今回社会科の学習指導要領では言語活動の充実ということも言われているので、説明ができて何かを考えて発展的な活動につなげていくとすると、帝国書院のほう客観的な思考や判断力が問いやすいのではないかなと感じた。いずれの教科書も大きな流れを同じように捉えているが、子どもたちの学習を発展的につなげていくということで考えると帝国書院を推薦したいと思った。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 私も帝国書院である。タイムトラベルで当時を描いた絵などを、見開きで示しているが、他にはそのように昔の生活状況や風景を、想像ではあるが、</p>

塩田委員

描いて示しているという教科書はない。チャレンジ的な感じもするが、実際に過去に行ったらどのような風景を目にするのかということが非常にイメージしやすくできているのではないかと思った。また、コラムのような部分でも、詳細なところまで見ると、結構チャレンジをしているなど。歴史のデータをもとにいろいろなことを想像させたり考えさせたりする場面では、もちろん答えがないような質問も数多くあるが、歴史のおもしろさを伝えるような工夫がなされていると感じた。ほかにも様々あったが、入っていきやすさという意味では、帝国書院がよいのではないかと思った。

○ 私も読んでみて、東京書籍と帝国書院のいずれもよいと思っている。東京書籍は、説明がわかりやすい。1つ例をあげると、大和政権という表記である。私は大和朝廷であると思っていたが、いろいろな言い方が今はあるということがわかり、それについてきちんと説明がなされていた。そのほかの語句も解説が後ろにまとめて記述してあるということも、ていねいであると感じた。

また、西洋の学習では下部に年表があり、この見開きのページの時代というところが矢印で示されており、西洋と日本の関係がわかるようになっていた。西洋でこういうことがあったときに日本ではこういうことがあったのだと関連づけて学べるような工夫がなされていた。

それから、私たち歴史探検隊というのが出てくるが、原爆ドームの保存と平和への願いというところで、自分たちの意見や考えを伝えようという学びの中で、調べ方の例として原爆ドームの保存と平和への誓いを取り上げていて、これは読みごたえがあったように思う。岡山のことでの記述としては、石井十次や留岡幸助についての話も紹介されていて、親しみが持てるように工夫され、岡山の先人の活躍について触れているところがあった。

一方で、帝国書院であるが、やはり充実している。文章中のナンバーやどこに解説があるかということを示している。解説もわかりやすくできているなどと思った。また、学習課題を与えて確認しよう、それから章ごとに学習を振り返ろう、そしてさらにタイムトラベルで確認をするという学びの流れがわかる構成になっていると思った。人物コラムでの紹介は、その時代時代に合った人を選んで紹介をしていると思う。さらには、先ほど述べたESDの視点である共生や環境といった内容も取り上げられており、羅針盤のマークをつけることによって、公民や地理の流れに沿っている感じがした。それからもう1つ、帝国書院だけが多分取り上げていると思うが、日本がODAへの出資で世界に多くの支援を行ってきていることや、公民とも重なる部分はあるが、NGOやボランティア活動で被災地の援助も行っているという世界貢献についての記述もあり、子どもたちにも知ってもらいたい記述であると感じた。

どちらも特徴があってよいと思う。どちらというのは言いづらい。ただ、最後に話したポイントであるESDなど岡山市の子どもたちに身近なものの記事があった帝国書院かなというふうに思う。

○ 帝国書院ということで。
○ 歴史の教科書も数年前に比べると大分内容的にも似通ってきている。以前であれば、記述内容に大きな開きがあるような感じも受けていた。しかし、大分内容的に平均化されてきているように感じた。細かく見れば記述内容に違いがあるが、その中で、学び社というのがある。

学び社は大判のもので、タイトルがものすごくおもしろい。読み物としては相当おもしろいという感想である。人類の誕生というところ、木からおりた猿というようなタイトルをつけている。しかし内容的には少し薄いような

委員長
教育長

<p>指導課指導副主査 教育長 委員長 教育長 委員長 教育長</p>	<p>感じがした。やはり、それぞれよさというものを持っている。教育出版には点字が掲載されていた。歴史的な点字の意味ということも踏まえて出されていた。確かどこかに紹介がしてあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育出版の巻頭の5ページ下に点字が紹介されている。 ○ ここには凹凸もある。 ○ 気がつかなかった。 ○ これは点字というものの歴史として紹介してある。 ○ ユニバーサルということか。 ○ 中身を見たなかで、やはり他の委員の方も言われていたが、東京書籍と帝国書院がよい。東京書籍は歴史探検隊ということで、自分たちの町に出かけていくことが促されるような展開になっている。帝国書院も小学校で学んだ地域の人物や、地域の建物、遺跡というものを取り上げながら、自分達の郷土の調べ学習に発展するような学習を取り上げている。岡山市の子どもたちが郷土への関心が少し薄いということからすれば、しっかりと郷土学習ができるような展開というのが望ましいのではないか。 <p>帝国書院は、全て見開きになっている。見開きによって確認しよう、説明しようというのがあり、歴史的な事象をお互いに関連づけながら学習を進めていく展開になっている。歴史の流れを関連づけて考えることができにくい岡山の子どもたちにとってみれば、必要なことではないかと思った。</p> <p>帝国書院でおもしろいと感じたことにトライアル歴史というものがあった。島原・天草一揆に外国船があらわれたのはなぜか、坂本龍馬の暗殺はなぜおきたのか、ということ子どもたち自身に考えさせるような内容があった。坂本龍馬の暗殺についても歴史的に大きな意味があったのであろうし、外国船のことなど読んでみて初めてわかったこともあった。読み物として、コラム的な要素があると思う。歴史を案内していくという、歴史に興味を持たせるときのポイントが幾つか示されており、それをさらに関連づけながら学習を展開していくということがわかる編集になっている。</p> <p>東京書籍と帝国書院の2社でなかなか難しいが、帝国書院である。</p>
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 帝国書院ということであるか。 いかがか。このほかの意見はないか。 ○ <なし> ○ では、歴史は帝国書院に集約できたようだが、よいか。 ○ <承認>
<p>全委員 委員長 全委員 指導課課長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1点目は、解説がわかりやすく、生徒が主体的に調べ学習ができるよう配慮されているとともに、歴史を大局的に捉えられるよう工夫されている点。2点目は、トライアル歴史では、文字資料だけでなく、地図、写真など複数の資料を関連づけながら読み取って、歴史のおもしろさを考えることができるよう工夫されている点。3点目は、学習した内容に対する具体的な問いかけが設定されており、歴史の意味を考えることができるようになっているとともに、発展的に学習を進めることができるよう配慮されている。この3点でいかがか。
<p>委員長 全委員 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ よいか。 ○ <承認> ○ ここで5分間の休憩をとる。 ○ <休憩>
<p>委員長 指導課指導副主査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 再開する。 続いて、公民にいきたいと思う。 ○ 社会、公民的分野について説明する。

岡山市の子どもの公民的分野の課題は、特に身の回りの出来事、国内や海外の時事問題に興味、関心を持ち、よりよい社会を考えるために主体的に学んでいくことができにくいということにある。それでは、各教科書の特徴を説明する。

まず、東京書籍である。深めようやアニマル大陸の例では、学習内容と関連させた言語活動を行うことができるよう工夫されているとともに、持続可能な社会について探究的に考えを深め、社会参加への意識につながる構成となっているといった意見が出た。

続いて、教育出版である。読んで深く考えよう、言葉で伝え合おう、見てみよう、読み解こう等のコーナーでは、学習内容に関連した課題が設定されており、言語活動の充実に向けた配慮がなされているといった意見が出た。

続いて、清水書院である。調査のコーナーが設けられ、学習内容を踏まえた発展的な調べ学習等ができるようになっているとともに、自分なりの考えを持ち表現する力の育成を図ることができる設問が準備されているという意見が出た。

続いて、帝国書院である。各単位時間冒頭にクローズアップが配置され、中学生にとって時事問題に対して興味関心を持ちやすい内容が掲載されているとともに、グラフ等の資料を使っての学習も取り入れられ、確認しようで確実な定着を図ることができるよう配慮されているといった意見が出た。

続いて、日本文教出版である。情報の選別や読み取り、情報をもとに公正な判断をするための留意点などについて充実した説明が掲載され、情報をどのように扱っていくのかということを段階的に学ぶことができるように工夫されているといった意見が出た。

続いて、自由社である。課題の探究では、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート等の方法が具体的に解説されており、思考、判断、表現する力の向上を図ることができるよう工夫されているといった意見が出た。

続いて、育鵬社である。教科書の導入の部分になぜ公民を学ぶのかが掲載されており、地理や歴史で学んだことを踏まえて公民を学ぶ意義を確認するとともに、自分を振り返り、自分の将来を見詰めることができるよう工夫がなされているという意見が出た。

- 2社について説明させていただく。東京書籍と帝国書院を取り上げたい。一つの視点として、岡山市の子どもの課題に書かれている現代社会についての見方や考え方がある。これは公民では重要なポイントだと思う。この2社以外の教科書はディベートの手法がかなり含まれていた。正しいのか正しくないのか、イエスかノーか、右か左かどちらかに決めるようなものであった。ただ、東京書籍と帝国書院の場合は、第3の立場もあるという考えに立っていると思った。特に、今回は学習指導要領では対立から合意へというフレーズもあるため、対立構造を教えるだけではなく、やはりどのようにすれば合意していけるのかということを考えることで、現代社会のあり方、考え方が成熟するのではないかと思った。特に、東京書籍は、1対1ではないという配慮がよく見受けられた。

もう一つ。東京書籍では、企画書の学習において、コンビニ弁当の企画をテーマに挙げていたが、既習事項をうまく活用しながら参画する力を身に付けるようにしていた。活用は資料としてグラフを使っていた。今必要とされているPISA型の学力につながっていくのではないかと思った。帝国書院もそういうところは感じられたが、企画書のところでは、根拠を図表やグラフから導くようにはなっておらず、説明的なものが主になっていた。東京書籍に書かれている株式会社の仕組みの説明についてもかなりうまくできて

委員長

<p>奥津委員</p>	<p>いたので、結論としては東京書籍を第一に推したい。</p> <p>○ 公民的分野に関しては、私自身が法律家ということもあり、選ぶ観点としては一点だけである。憲法に関する記述がどのように書かれているかということである。日本国憲法というわけではなく、憲法そのものがどのように説明されているのか、きっちりと書かれているかどうかという観点から見ると、半分ぐらいに絞られた。その中で、法の支配であるとか立憲主義について、過不足なく簡潔にわかりやすく書かれているのはどれかという観点から見たところ、東京書籍であったので、東京書籍を推したいと思う。他の教科書は、多少余分なことも書かれていた。民主政治の基本というのは何かといえばやはり憲法であるので、きちんと教える必要があるのではないかと。18歳に選挙権年齢も下げられるので、主権者教育という意味でもそこは重要ではないかなと思った。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ 私は、東京書籍と日本文教出版であるが、この教科書2冊はとても内容が似ていると思った。東京書籍の方が少しよいと思っている。取り掛かりにくい課題に対しても親しみやすく書かれている。多文化共生の学習では、漫画を使ってトラブルを紹介して考えさせるようなことがあった。72ページでは誰を市長に選ぶべきかという身近で具体的なテーマで議論をさせるようになっている。議論をさせた後に、学びを深め、114ページまでを学習をした後に、X市の市長選に立候補しようという流れになっている。勉強したことを活用して施策をつくる、実践をするという内容になっており、自分たちでそれを確かめ、実感をするという流れがおもしろいと思った。</p> <p>東京書籍は、インターネットを活用した住民参加ということで岡山市の取組が上げられていた。電子町内会の紹介がされていたので、親しみが持てるのではないかなと思う。文言で多少気になったことに、ワーク・ライフ・バランスやフェアトレードという言葉がある。東京書籍はそれについても言及があったということで、東京書籍を推したいと思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 先ほど委員長が言われた現代社会に対しての見方、考え方というところから見たときに、さまざまな視点や考え方があった。同時に、対立と合意という言い方や効率と公正などいろいろな見方というものが示されている。さらにそれを学ぶために子どもたちにとって身近な漫画を用いたり、今の社会にある経済、政治、国際的な課題、いわゆる時事問題と言うものをきちんと自分なりの考えを持って学べるように工夫をされていたりするものが東京書籍であった。また東京書籍は全体的にESDの視点があり、持続可能な社会というものをいつも記述の内容に加えている。</p> <p>日本文教出版は漫画を取り上げながら政治、国際問題、経済問題ということに結びつけていこうという姿が見えた。ただ、それをどのように次につなぎ活用していくのかというところでは、少し弱いと感じた。</p> <p>清水書院、教育出版、自由社、育鵬社等々についても、子どもたちにどのように興味を持たせて学習に取り組ませるのかという点でいろいろ工夫をされていた。グラフやキャラクターを取り入れながら教科書の表記の工夫をされていた。相対的には東京書籍を推したいと思った。文章についても東京書籍の場合は簡潔にまた無駄を省いた文章になっていた。岡山市の子どもたちにとって大切な基礎基本の習得を、簡潔で客観的な記述によって習得できるように取り組めるようになっている。</p>
<p>委員長 東條委員</p>	<p>○ 東京書籍ということではよい。</p> <p>○ この分野は、日常的に耳にすることが多く取り上げられるため、勉強になりやすいと思っている。それだけに、身近な時事問題というものをどのように教科書の中で取り扱い、学習内容と関連させて理解することができるよう</p>

<p>委員長 全委員 指導課課長補佐</p>	<p>にすることが必要である。その工夫はどの会社も示されているが、明確に示されているのが東京書籍と帝国書院であると思った。先ほどから少しこだわっているように、岡山市で取り組んでいる教育の内容、例えば、塩田委員からも出たESDについて一貫した姿勢が東京書籍には感じられる。時事問題については、東京書籍も帝国書院のいずれも重要視をしており、うまく取り扱われている。岡山市の教育に近いということ言えば、東京書籍が一番生徒たちも実感しやすい内容であると言える。もう一つカレントトピックスであるフェアトレードなどについてもきちんと取り扱っている。これからの子どもたちによく知っておいてほしい内容を網羅的に取り扱っているということから、東京書籍がよいのではないかと考えた。</p> <p>○ では、憲法の立場からも教える内容からも東京書籍ということであるが、よいか。</p> <p>○ <承認></p> <p>○ 1点目である。対立と合意、効率と公正なものの見方や考え方の習得及び活用を意識した構成になっており、現代社会についてみずから考えることができるよう配慮されている点。2点目が、法の支配や立憲主義がていねいに書かれており、生徒が学習しやすいよう工夫されている点。3点目、市長選挙などの身近な話題で議論した上で学習を深めることができるよう構成されており、実感をもって学習できるよう配慮されている。この3点でいかがか。</p>
<p>委員長 指導課人権教育室 室長</p>	<p>○ 続いて地図に移りたいと思う。</p> <p>○ 地図についてご説明する。</p> <p>岡山市の子どもの地図における課題は、特に土地の高低差を考慮に入れて、三次元化された地形を想像することを苦手とする生徒が多いことにある。そこで、平面の地図を立体的に捉えることに着目して地図の2社の教科書の特徴をお伝えする。</p> <p>まず、東京書籍である。この教科書の鳥瞰図、立体的に見える地図であるが、この鳥瞰図はコンピューターグラフィックスを用いた詳細な画像で、陸上のみならず海底の高低まではっきり示されている。地形の様子が正確に把握でき、学習に役立つといった意見が出ている。</p> <p>次に、帝国書院である。この教科書の鳥瞰図は、手書き風の地図であり、地域の特徴的な建物や特産物がイラストで表現されているほか、植物が生えている状態もわかるよう工夫されている。親しみやすく、興味、関心を高めることができるという意見が出ている。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 地図は帝国書院がよい。見やすさといった面や鳥瞰図についてもいろいろなイメージを持ちやすいと思われる。陸上部分のイメージも持ちやすいのが帝国書院であると思う。地理とセットということではないであろうが、安定しているという印象があった。帝国書院を推したいと思う。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ 社会、地理の資料を補てんするという意味で、資料が充実しているかどうかという視点を中心に読んだ。13ページに世界の環境問題というものがあり、北極海の面積を表しているところがあるが、氷が溶けているという事実をインパクトのある画像を使って伝えていたと思う。東京書籍はツバルの写真を使っているが、見た目のインパクトでは北極海の氷が勝っていたと思った。</p> <p>災害と防災については、地震と火山の分布をどちらの地図も取り上げているが、帝国書院はプレートの場所が明記されており、南海トラフなども書かれている。私たちもこれから考えていかなければならないところなのでその場所がどこにあるのかということが明確に記述されていてわかりやす</p>

<p>教育長</p>	<p>いと思った。</p> <p>資料が2013年ということで北陸新幹線についての記述が東京書籍ではなく、多少古いように思った。帝国書院が鉄道の発達による時間と距離の変化というところで、日本地図を使って数年前に比べて距離が短くなっているということを表していたことにインパクトがあると思った。そのような理由から帝国書院である。</p> <p>○ 先ほどの子どもたちの課題の中で、高低差とか三次元で物を見ていくことがなかなか十分ではないという説明があった。東京書籍、帝国書院いずれも工夫があった。東京書籍は海底までも表していたし、帝国書院は上から見た鳥瞰図を利用しながら高低差というものを視覚的に捉えやすいようにしてあった。ただ、帝国書院には、さらに特徴的な建物などを細かくイラストで示している。子どもたちの三次元にもものを工夫したり、想像したり、考えていく力というものを育てていったりすることになると思う。地図を見る目であるとかやってみようというものが掲載されており、地図を活用し、さらに発展的にもつながりを考えながら学習をしていくことができるような工夫が帝国書院の中には示されている。これは、関連性をしっかり理解していくという岡山の子どもたちの課題に対して学習を深めていくことができるのではないかと考えた。したがって、地図に関しては帝国書院を推したいと思う。</p>
<p>東條委員</p>	<p>○ いろいろ特徴があると思うが、単純に帝国書院の方が色が濃くて見やすいと思った。やはり立体的に捉えにくいということは、最近の子どもたちはディスプレイやスクリーン慣れていたり、色のコントラストのはっきりした画面を見なれていたりするため、はっきりとした色の違いがなければ読み取りにくいのではないかという気がした。内容的なことに関しては各委員から指摘があったとおりであるが、別の視点で言うと見やすさという点では帝国書院がよいという印象を持った。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 私も地図は帝国書院が扱いやすく見やすいのではないかと感じた。色のコントラストがはっきりしており、なおかつ国と国の境の線のつけ方が非常にクリアなので、視力があまり良くない子どもでも使いやすいのではないかという感じがした。グリーンがとてもきれいである。地図はやはり見たときにはっきりとわかるものがよいのではないかと思う。</p> <p>鳥瞰図が効果的であるという感じがする。立体的な見せ方もいろいろあるが、鳥瞰図で見ることによってイメージが湧きやすいのではないかと思う。</p> <p>さらには、日本列島についていえば、いつも日本列島から見ている地図に慣れているが、アジアから見た日本列島がどのようになっているのかという地図が掲載されていた。南半球に行けばまた違う地図があるわけであるから、世界の中で見方が色々とあるという視野に立って学習することも必要ではないかと思った。したがって、ユニバーサルな視点からも内容からも帝国書院がよいと思った。</p>
<p>全委員 指導課課長補佐</p>	<p>ということで、地図は帝国書院でよいか。</p> <p>○ <承認></p> <p>○ 3点にまとめさせていただく。1点目は、地図を見る目ややってみようでは、何を見るかという視点が示されており、生徒がテーマを持って主体的に発展的な学習ができるよう工夫されている点。2点目は災害と防災、世界の環境問題など資料のインパクトがあり、生徒が興味を持って学習しやすいよう工夫されている点。3点目として、地図の彩色や文字が濃くコントラストがはっきりしているため、見やすくなっている点、この3点でいかがか。</p> <p>○ よいか。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ よいか。</p>

<p>全委員 委員長 指導課指導副主査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <承認> ○ 数学へ移りたいと思う。 ○ 数学について説明する。 <p>岡山市の子どもの数学における課題として、特にどのようにすれば問題を解くことができるかという筋道を立てて考える力を身につけること、これが必要となっている。そこで、考える力を身につけることに着目して数学の7社の特徴をお伝えする。</p> <p>まず、東京書籍である。学び合いのページでは、自分で考えてみよう、友達の意見を聞こうなど学習の流れが示され、数式、関数、図形を使って考えをまとめ、説明する活動を促すことで数学的な思考力、表現力の育成を図ることができるように工夫されているといった意見が出された。</p> <p>続いて、大日本図書である。章末の挑戦しようでは、課題解決のために生徒が考えをまとめ、その方法を説明することを通して、学んだ知識、技能を活用できるように工夫されているといった意見が出された。</p> <p>続いて、学校図書である。巻末の表現する力を身につけようでは、自分の考えをまとめたり伝えたりするためのレポート作成例が示されており、各自が興味、関心のあるテーマを選んで取り組むことができるよう工夫されているといった意見が出された。</p> <p>続いて、教育出版である。自由研究のページには豊富な課題が準備されており、数学で学んだ内容を応用することができるように工夫されているといった意見が出された。</p> <p>続いて、啓林館である。自分の言葉で伝えようやみんなで話し合ってみよう、自分の考えをまとめようのコーナーもノートやレポートに考えを整理したりすることができるように工夫されているといった意見が出された。</p> <p>続いて、数研出版である。どの学年にも最初にクイックチャージのページが設けられ、小学校や前学年の学習内容の復習や練習問題が掲載されている。また、巻末のチャレンジ編には、多くの発展的問題が用意されているといった意見が出された。</p> <p>続いて、日本文教出版である。数学の探検、深める数学、生活への利用で他教科との関連や実生活の場面への活用、探究的な活用の内容が取り上げられているといった意見が出された。</p>
<p>塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全部読ませていただいたが、東京書籍と数研出版と啓林館を見比べてみた。東京書籍は数学マイノートというところでノートの書き方が示されている。数学の場合は協同で学習をすることがあるが、その協同学習に対応したノートの書き方という提案があった。しかし、やはり啓林館だと思う。最初のところで、学ぶ皆さんへあるいは保護者の方へというものがついており、数学に対する考え方の記述もあった。さらには、この本の使い方の説明がすごくわかりやすく、何か数学の本質を説明しているように思った。話し合いや発表を通じて自分の考えを深めようということであるが、いずれの教科書にもあったが、1ページを割いて方法を説明しおり、生徒にとってはわかりやすいのではないかと思った。岡山に関する記述で言うと、代金の問題のところの後楽園の入場料の計算があった。また、興味が持てたのは、昨今頻繁に用いられる緊急地震速報の仕組みを説明する中で、数学の学びを生かそうというものがあったり、自由研究のテーマの例がとても取り組みやすいものになっていたりするように思った。何より、マ스ナビという別冊があり、答えがそこに掲載されているということで、岡山の子どもたちに足りない粘りであるとか、すぐに答えを見るのではなく、別冊を見なければ答えがわからないということが、諦めない力をつけるうえで役立つのではないかと感じ

<p>教育長</p>	<p>た。また、アドバンストに対応できるものになっていると思った。全ての教科書を比べてみると、やはり啓林館は完成度が高く、他の教科書の追随を許さないという印象を受けた。</p> <p>○ 塩田委員が言われた内容と重なるところがあるが、やはり啓林館がよいと思う。啓林館については、必要なことが簡潔に書かれており、情報量が少な目であるが、考えることができるような編集になっている。</p> <p>別冊を出しているのは確か啓林館だけであった。別冊によって次の興味関心、数学と生活との関連であるとか、そういうものがしっかり述べられていたり、また考えることができるようになっていたりするように思う。結局、数学を道筋について考える、それをまず興味を持って次に考えて発表するというところまでいかないといけない。道筋を立てて考えるという力を育てていく上では必要であろうと思うが、そのきっかけづくりをマスマナビですることができるようなことも考えられるのではないかと思う。また、いろいろなページの中に、話し合いであるとか発展などの活動に取り組むことができるような展開が示されている。岡山の子どもたちにとっての欠点というものに対して、これを活用することによってしっかり力を伸ばしていくことができやすいのではないかと思った。東京書籍を推したいという気持ちもあったが、やはり比べてみたときに啓林館というふうにした。</p>
<p>委員長 東條委員</p>	<p>○ 啓林館ということである。</p> <p>○ 数学は学年が進むに従って積み残しが多くなっていくという教科であるので、系統性というか既習事項をどのように振り返らせながら学んでいくのかということが大事な科目なのだと思っている。系統性ということ言えば、いずれの会社もそれなりに振り返ってみようというかたちのものがある。その部分を丁寧に行っているのは教育出版であると思った。こういうことがあったよねと学習したことを振り返ることは他の教科書でもあるが、章に入る前に、既習の学習を実際にもう一回計算させ直してみたりするプロセスがあり、丁寧に扱われているような気がした。一方で、啓林館に関しては、それは割合軽く触れてあるぐらいで、全体の中ではあまりそういう意識が強くないのかなと思った。東京書籍もよいと思った。それは、小・中・高というように前の学校から次の学校にこのようにつながっていくといった内容がはっきりと表現されているということで、東京書籍と教育出版がよいと私は思った。課題としては、説明することが苦手であるとかいろいろ書かれているが、基本事項をきちんと押さえなければいけないということで考えると、私は教育出版という印象を持っている。東京書籍あるいは教育出版ではないかという感じである。</p>
<p>委員長 東條委員 委員長</p>	<p>○ 教育出版ということではいいか。</p> <p>○ よい。</p> <p>○ 数学は多かった。7社を見させていただいて、2社が残った。残ったのが啓林館と東京書籍だったが、あとの5社は割と今までの数学ではないかという感じがした、内容的な運びとか。この2社は、これからの学力、特に啓林館は守備範囲が広いかなと。学力的に多少難しい子どもから発展的なところまで守備範囲が広く具体的に書かれているのかと。例えば、立体の表面積と体積のところでは、これは数学の先生の好みがあるのかもしれないが、東京書籍は体積から入る。体積から入って表面積。立体から入るよりは平面から入ったほうがわかりやすいのではないか。正の数であるとか負の数では、啓林館はゼロより小さい数から入る。東京書籍はいきなり正、負の数ということになっているので、少し概念がつかみにくい子どもにとっては難しいのではないか。同じように平方根も啓林館は割とステップを踏んで平方根の値か</p>

ら有理数と無理数までおこなって理解しやすい。東京書籍は、もう根号を含む式の計算に入っているという。そういう少しステップが違うのではないかとところどころで感じた。

啓林館は、先ほども出たマ스ナビがものすごく充実している。例えば数学をサッカーのデータを読み取るためにどのように使うのかであるとか、将棋の先手の定石をどのようにするかといった一般社会の数学的なことと公式が実社会とどう結びついているか。多分、数学を学習するときに、みんな関係ない、世の中に出れば自分は数学と関係がないという子どもが多い中で、少し実社会を結びつくような目で書かれているところが随所にあるのがわかりやすい。それから今の守備範囲が広いところ。発展的なところであれば、数学の目で見えることを自由研究のレポートにまとめようとするところは、これは幾らでも発展的なところにつながるのではないか思った。東京書籍も、確率の扱い方であるとか数学の窓で日本の伝統模様を実社会と結びつけているというのは、よいアイデアであるし、和算の考え方も出ているので、数学が得意な子どもはとてもおもしろいのではないかという気がした。結論としては、啓林館ということをお願いする。

奥津委員

○ 私も結論としては啓林館である。先ほどから出てくるマ스ナビブックが非常によくできており、これで決めたように思っているところがあるが、中身も割とほかのもの比べて簡単で、入っていきやすいような感じがあった。中学校の数学というのは、ここで挫折する生徒が非常に多いと思う。少しでも挫折しかかった子どもが何とか取り戻すことができるかというような点から考えたときに、あまり教科書のハードルが高いようであるとかなかなか厳しいであろうから、できるだけ入っていくところが低い方がよい。またこの別冊というものが興味を持てる内容であるということ。どこを見ればよいか、例えばこの知識は小学校で習っているとか、これは何年生の何ページにあるとか、そのようなことまで書いてある。そういった救済策というか、少しやってみようとしたときに非常に役に立つのではないかと思った。ほかも見ていると、数研出版は個人的には好きであったが、少し内容が高度過ぎるかなと思う。できる子にはよいと思うが、おそらく普通に使うと挫折していく可能性があるのではないかという印象を受けた。というわけで、啓林館がよいと思う。

委員長
東條委員
委員長
指導課課長補佐

○ 教育出版というのはよいか。
○ よい。
○ では啓林館ということで。
○ 3点にまとめさせていただく。1点目、これから学ぶ皆さんへ、保護者の方へなど、数学の本質が説明されており、数学の学習に取り組みやすいよう工夫されている点。2点目は別冊のマ스ナビブックにより既習事項を確認することができるとともに、数学と生活との関連を考えることができるよう配慮されている点。3点目、基礎的、基本的事項から発展的な学習まで幅広く取り上げられており、全ての生徒が学習しやすいよう配慮されている、この3つでいかがか。

委員長
全委員
委員長
指導課指導副主査

○ よいか。
○ <承認>
○ では、続いて理科である。
○ 理科について説明する。
岡山市の子どもの課題は、特に観察や実験の結果や、その結果から考察したことをみずからの言葉で科学的根拠に基づいて説明することができにくいことにある。そこで、思考力や表現力を身につけやすいことに注目して、

教育長

理科の5社の教科用図書の特徴をお伝えする。

まず、東京書籍である。思考力や表現力を育成するための言語活動の場面が探究的な流れの中に設定されているため、自然に思考力や表現力が育つような学習展開になっているといった意見が出た。

次に、大日本図書である。終章に学んだことを生かそうというコーナーがあり、観察や実験の結果を自分の言葉で説明することができるよう工夫されているといった意見が出た。

次に、学校図書である。既習事項を活用して自然の現象を説明するようになっていることや、実験が豊富でグラフや結果の書き方例が示されており、生徒がみずから学ぶことができるようになっているといった意見が出た。

次に、教育出版である。単元末の活用、応用問題などでは、生徒がまとめる際に使う言葉が示され、習得した知識を活用する問題が掲載されており、生徒がみずからの言葉で考察を表現することができるといった意見が出た。

最後に啓林館である。自分の考えを発表したり他者とコミュニケーションしたりする活動が結びつけられており、言語活動を充実させるためのコーナーが設けられているといった意見が出た。

- 先ほど担当のほうからもあったが、結局、自分の言葉で関連づけながら説明をするというところが、やはり理科では一番大切であり、理科的な見方、何の根拠に基づいて何が説明できるか、何が学んだことになって、それをきちっと説明できるかどうかというものが大切なのではないかと思う。先ほど言ったように東京書籍は科学的な探究活動からまとめまでの流れがスムーズに展開することができるようになっている。ほかの教科書会社もそれぞれが、例えば先ほど啓林館の説明にも出てきたが、話し合いをしよう、予想しよう、考えてみよう、活用しよう、そういう言語活動がスムーズにいろいろな面で用意をされている。そういう面では、いろいろそれぞれが工夫されているところは見えたが、一番スムーズに展開でき、言語活動をしっかり学ぶことができるのは東京書籍であるということが一点である。もう一点は、東京書籍の特徴として、学ぶ年間計画を考えていくときに、その順番に教科書が編集されているということである。A領域、B領域というのか、生物の関係、化学、物理の関係というのがある。小学校であれば分けて学習をしないが、中学校からは領域の学習というものが入ってくる。東京書籍は教科書の一番最初に植物がある、生命というのが。他の教科書会社はどちらかという後半に出てくる。学習をしていく上で教科書の最初から順番に学習していくような展開になっていっているということが一番特徴的なところであると思う。

また、使われている写真というのが本当に大きく、大判が使われている。それによって、例えば最初の植物のつくりというところであれば、見やすいものになっている。学校図書も教科書の半分以下にそれが出ている。ところが、中身の写真がものすごく豊富である。こういう野草的なものも結構、たしか16枚ぐらいずっと同じように並んでいるので、身近な野草というものがしっかり観察できるということがあった。ちょっと私の感じでは、どちらかという小学校での学習の視点というものが最初のあたりはずっと並べられているのかというふうに思った。既習事項の復習ということから考えれば、最初のところであればよいが、何ページか続いているような感覚を持った。啓林館だけがマイノートという別冊がある。マイノートは観察、実験の定着を図るように、自分のノートの中へ書き込みながら学習したり、また用語の勉強などもできるようになっているということも工夫されている。そういうよさも感じることはできたが、やはり一番は東京書籍の教科書

<p>委員長 東條委員</p>	<p>を推したいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ では、東條委員。 ○ 何社もおもしろいものがあった。教育出版はモデルカードを使って、原子とか分子の勉強をするなどいろいろな工夫があるが、私も読んでみて東京書籍のものが一番使いやすいのではないかなと思った。子どもたちがやはり自分の言葉で説明していくことが得意ではないというのは、勉強の中で出てきた単語を使いながら言語表現をするということが、習ったことと表現するという段階が別のタイミングに設定されているので、定着していくには難しいというふうになるのだらうと思う。しかし、東京書籍の場合は、一応この教科書のステップでやっていくと、それぞれのところで表現するという機会があり、あまり無理なくそれができるといえるのではないかなということが感じられた。もう一つは、いろいろな、例えば気象現象などに関する記述のところで、防災とか減災に関する教育が少し取り上げられているが、今日的な課題についての対応ということが、割とわかりやすく連動して取り上げられているという点からすると、東京書籍がよいのではないかなと思う。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほかの教科書会社をいろいろ見させてもらって、部分的に、先ほどのような写真が多いところを資料として使わせてもらったりすると授業がしやすいのではないかなという感じがしたが、残ったのは2冊で、東京書籍と啓林館であった。推したいのは東京書籍だが、その理由は、割と東京書籍のほうは班で話し合やすタイムがとられているところが多いが、啓林館のほうは各自がレポートでまとめている。こうすると、できない子にとってはちょっと深まりが期待できにくいのではないかなという、岡山の状況からすると、もう少し班で話し合ったものに教師がきちんとコメントして返すのがやはり力がつくのではないかなという感じがした。 <p>スケッチのところで、東京書籍では選択肢は簡単な記述問題であるが、啓林館は図を描かせることを中心にしていて、その図は模式図をもとに描きましょうというものであるので、実物を見てスケッチではなく、模式図を見てさらにスケッチするというのは、ちょっと実際のところとは変わってくるのではないかな。模式図はもちろん正確なものではあるのだけれど、これはやはり実物を見てのスケッチは授業中にさせるほうが、より本物に近づくし、ドリル的なものではないほうがよいのではないかなという感じがした。</p> <p>先ほど意見のあったマイノートであるが、啓林館のマイノートは私自身は不要ではないかなと思った。理科は多分副教材を数多く採択するため多少中途半端であるかと。簡単過ぎるし、副教材を使おうと思うともう少し分厚いものになるであろうし、巻末の資料で学習を深めるのには、多少どっちつかずになるのではないかなという感じがしたので、少し付け加えておく。結論としては東京書籍ということで。</p>
<p>奥津委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私も東京書籍である。東京書籍の写真の質というのが圧倒的である。見比べてみたときに写真の色の鮮やかさ、写っている瞬間とか物などがもう圧倒的な感じがする。そこはかなりお金をかけているのかなという気がするぐらい。そこから非常に興味を引いていって、内容的にもほかとの比較で言うところとわかりやすいかなというふうに思ったし、付録も割と変わった感じの付録があって楽しめたり興味を引ける内容になっていたりするのではないかと強く思った。啓林館も割と好みではあったが、どちらかというといろんな、特に中学校の理科はやはり好きになるかどうかというのが非常に大事なところだと思うので、興味を持って学んでいけるかというところは大事だと思う。興味を持つという意味では、非常に東京書籍がよいと思った。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 塩田委員
<p>委員長</p>	

<p>塩田委員</p> <p>委員長 全委員 委員長 指導課課長補佐</p> <p>全委員 委員長 指導課係長</p>	<p>○ 私も同じで、やはり理科は導入の仕方が一番大切であると思う。興味が持てるようにどのように導入していくかという点だと思うが、そこが一番よいと思ったのが東京書籍であった。探究の流れの例などを挙げていたり、レポート作成のためのノートの書き方であったり、そういったところ。また、写真やイラストも非常にきれいであると思った。そういった視覚的なところから導入をしていくというのはよい方法であると思う。</p> <p>これは東京書籍の特徴であると思うが、やはり理科にはいろいろな決まり事があるということで、実験の手順だけではなく、やはり危険が伴うというところからリスクを回避するための決まり事を最初に、学習の始まる前に記述をしていたり、リスクが起こったときの処置の仕方についても書いていたりする。例えば、地震が起こったときの対応にも触れているというところは東京書籍の特徴であると思った。</p> <p>ビフォー・アフターで同じ質問をし、自分の学習成果を自ら確認できるというようなところ、それから理科も多分、協同、グループで話し合うことが多いと思うが、学びを生かして考えようというところでグループで話し合っ</p> <p>て学びの確認をして定着をしていくのだろうと思った。</p> <p>随所にこれまでに学んだことということが出てきていおり、理科はいろいろなところに関連をしているので、どこで学習したのかということがわかる、ここで、あそこで学んだというのを思い出しながら前に進めていくというのはすごく重要なポイントであると思う。これまで学んだことについて、記憶をよみがえらせてつながりを確認しながら進んでいくというのは非常によいやり方であると思った。</p> <p>啓林館は、やはりマイノート。私は、東京書籍でこの啓林館のマイノートがあればすごくよいのではないかと思ったが、副教材を使うということであれば、いろいろな教材を選ぶ選択肢があると思うので、東京書籍がよいと思う。</p> <p>○ では、東京書籍ということでよいか。</p> <p>○ <承認></p> <p>○ では、事務局願います。</p> <p>○ 3点にまとめさせていただく。1点目、科学的な探究活動からまとめまでの流れがスムーズで、生徒が自分の言葉で関連づけて説明できるよう工夫がされている点。2点目は、年間を通して学ぶ順番に教材が配列されており、生徒の意識の流れに沿っている点。3点目、写真が大判で質が高く、また防災、減災など今日的な課題が取り上げられており、生徒の学習意欲を喚起するよう工夫されている点。この3点でいかがか。</p> <p>○ <承認></p> <p>○ 次に音楽に移る。</p> <p>○ 音楽、一般について説明する。</p> <p>岡山市の子どもの音楽における課題については、特にこのような音楽にするために、この部分を工夫してみよう、といった表現したい思いや、意図を持つことができにくい、ということにある。そこで、表現の工夫がしやすいということに着目して、音楽の2社の教科書の特徴を説明する。</p> <p>まず、教育出版である。音のスケッチのコーナーがあり、創作の例や音楽の特徴に目が向くような吹き出しがあるため、生徒がそれらを参考にしながら表現することができるようになっていくといった意見があった。</p> <p>次に、教育芸術社である。レッツクリエイトのコーナーで、創作の際に参考となる吹き出しがあること。また曲のよさをプレゼンテーションしようのコーナーでは、曲の特徴や感じ取ったことを言葉で紹介できるコーナーがあ</p>
---	---

<p>東條委員</p>	<p>ることなどが工夫されている点である、という意見が出た。</p> <p>○ 音楽だけではなく、美術などもそうであるが、鑑賞したものをこうである、ああであると表現していくことは、日本人は全体的に苦手で、例えば日仏の比較研究のようなことを行うと、鑑賞を言語的に表現していくという堪能さは圧倒的に少なく、3分の1ぐらいしかない。そのことは、おそらく日常的にそういった機会がとても少ないからであり、かなり意図的にそういう機会をつくっていかねばできないということになる。そういう観点で考えてみると、両方とも表現することを大事にした教科書ではあるが、今紹介してもらったように曲のよさをプレゼンテーションしようというようなコーナーを意図的に教育芸術社がつくっており、そういう練習、表現するという練習をする機会が得られやすいと考えられた。これらのことから、教育芸術社の教科書のほうが比較的よいと考えた。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 両方見たが、今の表現したい思いや意図につなげるということでは、教育芸術社の教科書が適していると思った。さらに、グレードアップということで、パートの役割や曲の構成、曲を仕上げる上で最低限のことや積み重ねていくようなことの知識部分が、かなりわかりやすく扱われていると思う。</p> <p>もう一つ意欲的なところとして、例えば「荒城の月」の滝廉太郎の曲と山田耕筰の曲をくっつけて書いてあり、少し音程やリズムが違っているところも。興味がある子どもたちもたくさんいるだろうし、日本の伝統的な音楽に触れてほしいということであればとてもよいことであると思った。もう一つ、西洋音楽で言えば、オペラの「アイダ」はすごい迫力で取り上げられていた。こういう芸術分野というのは、理屈よりはっと来るものがあると、そこから随分感性が研ぎ澄まされてくるのかなと思うので、このあたりはうまくできていると思った。</p> <p>教育出版として、頑張っているのは、取り上げるものが近代的であること。例えば、片岡愛之助さんを取り上げるとか、津軽三味線の上妻宏光さんや、宮本亜門さんを取り上げるとか。そういうところは食いつきはよいと思うが、そこからどのように発展させていくかというところは、少し物足りないという感じがした。教育芸術社である。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 2つ見比べたときに、教育出版のほうは楽譜がたくさん出てきて割と小さな楽譜が多いかなと思った。それに比べると教育芸術社は、意外と楽譜はそれほど多くはなく、説明などがあるのではないかな。中学生なので、ある程度楽譜も読めるだろうが、入っていきやすさとか興味が持ちやすくやってみようというのは教育芸術社のほうが親しみやすいのではないだろうかと思った。おそらく、歌は歌えるが楽譜は読めないという中学生はたくさんいると思うので。もちろん楽譜も本格的にやることも大事だが、ただそれがどこまでそれを一生懸命やるかというところがある。まずは音楽を楽しむところから、授業でもそれをしていく、興味を持ってやっていくという観点からすると、教育芸術社のほうがよいのではないかと思った。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ 私も教育芸術社である。導入のところで、プレリズムなどで振り返り、小学校で習ってきたことを確認しながら、記号の意味や音符の書き方なども入っていたり、マイボイスで歌い方とか発声を結構詳しく2ページにわたって説明をしていたり、それから声が出る仕組みと変声期みたいなところと一緒に説明をしているような点で、導入の部分が教育芸術社のほうがよいと思った。</p> <p>それから、クラシックについて。中学生だと苦手な人たちもいるかもしれないが、そこに年表がついていて、これができたころに日本ではこんなことがあったというように少し興味を持ちやすくする工夫があると思った。岡山</p>

<p>教育長</p>	<p>つながりでいうと、日本の民謡のところの下津井節が取り上げられていたり、2、3年生の郷土芸能のところでも備中神楽が教育芸術社で取り上げられていたりして、親しみを持ちやすいのではないかと思った。</p> <p>あと教育芸術社では、最後に音楽史、耳でたどる音楽史とあったので、もしかしたらこれは何か聴きながらそれをたどっていくのかな、日本と西洋の比較をしているような感じだが、私も聴いてみたいなというふうに興味を持った。</p> <p>○ 教育出版と教育芸術社の2社だけだが、やはり教育芸術社を推したいと思う。先ほど子どもたちが表現の工夫をしていくことが苦手であるということ、自分の思いに沿った表現の仕方を工夫していくということを考えたときに、教育出版にはそのようなことは出てきている。しかし、教育芸術社は考え表現する工夫についてどのような工夫をすればよいかというその工夫の内容まで書いてある。例えば、何々を線であらわしてみましようという表現の仕方や、音をあてはめて五線に書いてみましようなど、工夫の先まで書いてあるということが教育出版の中には見ることができる。教育芸術社のほうは、考える中で、調べてワークシートに書きましようということではなく、ワークシートに自分の考えや工夫したことを書きましよう、伝わるように工夫して歌ってその感想を発表し合いましようという、工夫を自分たちの思いに沿ってできるような展開あるいは学習活動ができるようにしてあるように思う。また、教育芸術社は先ほど言った写真などがすごく特徴的に取り扱われている。歌舞伎もそうであった。鑑賞でも、その鑑賞でつけてもらいたい力というものについても考えたり、聴くときに注意をすることということも記述をしてあったりした。教育芸術社のほうを推したいと思う。</p>
<p>委員長 指導課課長補佐</p>	<p>○ では、教育芸術社ということをお願いする。</p> <p>○ 1点目、ここがわかればグレードアップが系統的に掲載されており、学習を進めることで曲の構成を系統的に学習することができ、表現力が高まるよう工夫されている点。2点目、鑑賞を言語化していくために曲のよさをプレゼンテーションしようが設けられており、生徒が意図的に表現できるよう工夫されている点。3点目が、滝廉太郎の曲、山田耕筰の曲をあわせて掲載されていたり、「アイダ」が迫力をもって掲載されていたりして、生徒の興味を高める工夫がなされているという点、この3点でいかがか。</p>
<p>委員長 全委員 委員長 指導課指導係長</p>	<p>○ よいか。</p> <p>○ <承認></p> <p>○ では、続いて器楽。</p> <p>○ それでは、音楽、器楽合奏について説明する。</p> <p>岡山市の子どもの器楽における課題は、特に音楽表現の技能を高めようとする意欲を持ったり、音楽表現の仕方を工夫しようとしたりするということが弱い点にある。そこで、生徒が意欲を持って表現技能を高めようとするところに着目して音楽の2社の教科書の特徴をお伝えする。</p> <p>まず、教育出版である。リコーダーのタンギングの音やサミングの方法などの掲載が特徴的で、生徒が音色を変化させるポイントがわかりやすくなっているという意見が出た。</p> <p>次に、教育芸術社である。旋律をつくって表現したり音を聴いて確かめたりすることができるコーナーがあり、学習した奏法を使ったり演奏の仕方だけでなく楽器の構造や響きの違いに目を向けて考えたりできるようになっているという意見が出た。</p>
<p>教育長</p>	<p>○ 言葉について教えてもらいたいものがある。タンギング、サミングについて。</p>

<p>指導課指導係長</p> <p>教育長</p> <p>指導課指導係長</p> <p>教育長</p> <p>指導課指導係長</p> <p>教育長</p> <p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ リコーダーで、タンギングは小学校のときにトゥートゥートゥートゥーというタンギングの仕方が教育出版社については3種類、トゥールーロー。 ○ これは小学校でも学習するのか。 ○ 中学校の場合は、教育出版についてはより使い分けられるように、通常トゥートゥーと使うところであるが、ドゥードゥーというような表記で音色の違いをつけやすいように工夫がされているという意見があった。 ○ むずかしい。 ○ それから、サミングについては、親指のところを少しずらすことで音の高さを変えていくということ。 ○ 絵はあったのだが、何が違うのだろうか。 ○ よろしいか。ほかの言葉は。割とそういうちょっとした専門用語が使われていた。
<p>奥津委員</p>	<p>いずれの本も意欲的である。器楽の教科書は3年間使うことになるのか。多分器楽は、中1、中2、中3で3年間持ち上がる教科書だろうと思う。発達段階でいろいろなところで、いろいろな活用の仕方があると思うが、私は教育芸術社がよいと思った。なぜかという、このマイメロディーのコーナーに創作の表現コーナーがついている。普通、音楽というのは再現音楽というのかある楽譜を演奏できたら、もうそれでよしということも多いと思うが、それにプラスして、創作、つくってみようという動きは中3ぐらいになると随分意欲も湧いてくるだろうし、いろいろなことを紹介していくと音楽の幅が広がるのではないかと思った。教育出版は、またここでも配置する人物に工夫がしてあり、ギタリストは女性が掲載されていた。教育芸術社は男性を掲載していたが、ギターといえば男性という感じが強いのだが、女性のギタリストが載っていたので工夫がされていると思った。音楽の本筋からいうと、もっと演奏が上手になりたい、さらにはオリジナルをつかっていきたいということまで行こうと思ったら、教育芸術社がよいと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どちらがよい悪いというか、もとの音楽との整合性もあるのかなど多少思った。一応いろいろな楽器に触れて体験してみるということも大事なことであろうと思うし、また多分リコーダーは課題として全員やらなくてはいけないのであろうが、そういった意味で入っていきやすさとしては教育芸術社がよいと思う。
<p>塩田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ マイメロディーのコーナーで中学校3年、中学生に入ると創作に、こういう楽器に触れて、興味を持ち、そこから自分で演奏する先には自分で自分の曲をつくりたいというような思いをもつ生徒も出てくる。そういうところによく誘導する形で書かれているというのがあるので、教育芸術社を推薦したいと思う。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育出版はどちらかという練習がしっかりできるような教材というか、そういう学習活動が紹介をされている。教育芸術社は、今も言われたがいろいろなものを聞きながら比べ、それを自分で工夫して演奏していくということが、表現の工夫ということにつながりやすい学習活動として組み入れられていると思う。先ほどもあったが、岡山の子どもたちがそのあたりの工夫がまだ苦手であるということであれば、そこをしっかり学習できるような教科書であるべきということで、教育芸術社のほうを推したいと思う。
<p>東條委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 最後になって言うのもなんなのだが、子どもの課題として音楽、器楽合奏の課題に関しては、その学習が受動的であるとか、それから小学校で学習した内容が定着してないという課題があるということは、小学校で学習した内容をもう一回やり直してみる必要があるのだろうと理解した。先ほど説明のあったタンギングとかサミングのことなどに関しても、おそらくそういうこ

	<p>とを聞いているのだが定着していないのであれば、中学校でやり直すべきなのだろうと考えた。それからもう一つは、学習が受動的であるというのは、こうしましょうと言われてやるので受動的になるのだと思ったが、一カ所だけだが、教育出版は何か横笛をつくってみようというコーナーがあり、何かおもしろくて、今までの音楽活動と違うなという感じがした。いろんな角度から音楽活動に親しんでいくというようなことを考えると、こういうのもおもしろいのではないかと思った。教育芸術社のほうは、すごくオーソドックスな内容で、別になにかがあるわけではないが、岡山市の課題、子どもの課題ということで対応させて、よりそこ部分を強く意識すると、私は教育出版がよいと思った。</p>
<p>委員長 東條委員 奥津委員 東條委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体が出そろったが、いかがか。教育出版との意見も。 ○ 横笛が楽しそうだと思って。 ○ どちらかがどっちということではないが。 ○ 音楽が苦手だったので、こういうものがあつたらちょっとやってみようかなって思ったということ。
<p>委員長 東條委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ そういう視点も必要。 ○ 私は、何か音で創作するとかというレベルではなかったのに、音楽が苦手な男子生徒は楽しいだろうなと思ったこともあったということである。そういうアプローチもあるかなと思ったが、それがただ音楽教育の中でオーソドックスなものかどうかはわからないので。個人的にはこっちのほうを使ってみたいと思ったが、そんなにこだわりはない。
<p>教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先ほどのようなことまでわからないような状況があつたが、横笛つくるにしても、それから子どもたちがいかに演奏というものに対して自分の思いを持ちながら工夫をしていくことができるようなことを考えていくべきなのかなということだけ思う。それから考えると教育芸術社かなということ。
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合的にというか合科的にして技術の時間にちょっと笛をつくってみるとか、そういうふくらみがあると、少し学習で変わった力がつくかなとも思った。本題の音楽からいうと、今のご意見では教育芸術社が力を出すのには適しているかなという意見が多かつたが、よろしいか。
<p>全委員 委員長 指導課課長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <承認> ○ では、お願いします。 ○ それでは、1点目マイメロディーのコーナーでは生徒が旋律をつくって表現するコーナーがあり、学習した奏法を使って音楽を創作できるようになっている点。2点目。いろいろな楽器に触れられるような配慮がなされており、音を聴いて確かめようのコーナーでは、技能を高めようとする際の演奏の仕方だけでなく、楽器の構造や響きの違いなどに目を向けて考えられるような構成になっている点。3点目。生徒が自分の思いを持ち、さまざまな音楽を聴きながら表現することができるよう工夫されている点。この3点でいかがか。
<p>委員長 全委員 委員長 指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ よろしいか。 ○ <承認> ○ 時間が押しているが。 ○ 長時間ご審議いただき、感謝申し上げます。かなり時間も経過しているので、ここで中学校用の教科用図書の採択を一旦切っていただき、小・中学校の特別支援学級用の採択をお願いしたいが、いかがか。
<p>教育長 指導課長 教育長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ではあとのものは次回に回すようにするか。 ○ 後半はまた別途時間をとっていただければと思う。 ○ 後のほうは、高校、特別支援か。

指導課長 教育長	○ 今日は特別支援を是非お願いしたい。 ○ これはもう、それぞれが選んでいるのを見させていただくということではないのか。
指導課長 委員長 教育長 委員長 教育長 委員長	○ そうである。 ○ いかがか。あと1、2、3、4、5。 ○ いくつあるのか。5あるのか。 ○ そうである。 ○ 5だったら1時間半ぐらいか。 ○ そうである。事務局も5時を過ぎてというのは申し訳ない気持ちだが。無制限でいくかどうか。
教育長 指導課長 委員長 教育長 委員長	○ いかがか、次に延ばしたら、次回4日であったか。 ○ 委員会をお願いしたいと思っているが。 ○ 委員の方々、どちらがよいか。 ○ 当然、まだ今特別支援をしないといけないのはいけないが。 ○ 特別支援はするとして、その後、もう一回再開するか、日延べをするか。手続的にはどうか。8月になると報告することが遅れるとか困るようなことはないか。
指導課長 委員長	○ それはクリアできると思う。 ○ あとの問題点としては、皆さんに長時間いていただくことが申し訳ないということが一番だろうとは思いますが。委員の皆様は、もう今日の予定はないか。1分間の休憩をとり、調整させていただきたい。せっかくなので。 <休憩>
教育長 東條委員	○ これからであれば6時半。 ○ 4日の臨時会は何か手続的に面倒というか大変なのか、臨時会をやるのは。
委員長 教育長 東條委員 教育長 委員長 教育長	○ 事務局、いかがか。 ○ 今日と同じようなことをしないといけないかもしれないが。 ○ 開催手続は特別に大変なことではないのか。 ○ そうである。 ○ 教育長いかがか。 ○ 長時間といっても、あとまだ4つ残っているということであれば、次へ延ばしてもよいのではないかとと思っているが。
委員長 奥津委員	○ そのあたり、いかがか。次の予定を入れておられるか。 ○ 入れてはないが、これにどのくらいかかるのか。今日はこの後、特別支援学級をすればよいのか。
教育長 指導課長 委員長 奥津委員 指導課長 奥津委員 指導課長 委員長 指導課長 委員長 東條委員 指導課長	○ 高校は。 ○ 高校はそれほど時間がかからない。 ○ 時間がかからないのか。 ○ 今日済ませておけば8月4日は開催しないのか。 ○ 協議会はある。 ○ 協議会はあるのか。 ○ 協議会の後というふうに考えている。 ○ 高校と特別支援学級分を行った後で考えることにする。 ○ よい。 ○ できるだけ進むようにしたほうがよいか。 ○ 急ぐ必要はないのか。 ○ 高校は急ぐ必要はない。ただ、高校と小学校を積み残した場合、やはり臨時会をとっていただかないといけない。協議会では議決をいただくわけにい

<p>東條委員 委員長</p> <p>指導課長</p>	<p>かないので。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ いずれにしても、しなくてはならない。 ○ 傍聴の方々もまたくじ引きになるのも気の毒かと。それでは、特別支援を進める。 ○ 特別支援の教科用図書について簡単に説明をする。 小・中学校の特別支援学級で使用する教科用図書については、より子どもたちの実態に合った教科用図書を使用するというので、各学校で選定委員会を組織していただいて採択していただきたい教科用図書を既に選定をしている。当然事務局のほうで必要な手続を加えている。その内容は、平成28年度使用特別支援学級教科用図書選定資料にまとめているのでご確認いただきたい。
<p>委員長</p> <p>指導課長</p>	<p>今日は、その資料にある本等の一般図書91冊、文部科学省の著作本13冊の合計104冊全ての採択をお願いしたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 何か質問はあるか。 これに関しては、ここにあるのか。 ○ はい。この下に何点かだけ。全部だと大変なので、何点か見ていただければ。
<p>教育長 委員長</p> <p>指導課室長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ どのようなものが選ばれているのか。 ○ これは子どもたちの障害の程度などによって幅が広いのか。どの程度幅があるのか。 ○ 岡山市の場合は、一般図書というと本屋で売っている図書、書店で売っているもの全てが対象ではあるが、文科省が各特別支援学校で多く使われている図書325冊を一般図書一覧として3月末に各市町村のへ送ってくる。岡山市の場合はそれをもとに選定資料をつくり、県がつくっているものを参考にしながら各学校に選んでもらっている。
<p>委員長 指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ それだけか。 ○ 実際は、該当学年の本日採択していただいた教科書を来年度使用する子どももいるし、課題に合わせて中学生が小学校の検定本を使用する場合もあるし、こういった机の上にあるような絵本とか文部科学省の著作本を使用するケースと、さまざまなケースがあるが、子どもたちの障害の実態に合わせて学校のほうで選んでいるということである。
<p>委員長</p> <p>指導課室長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の中での選定委員会の構成メンバーなどについて教えていただきたい。 ○ 選定のメンバーについては、委員長を校長とし、その他特別支援教育コーディネーターは必ず入ること、それから各教科、その子どもがその学年で給与される図書の対象となる教科担当全てが入った上で委員会を設定して検討するようにしている。
<p>委員長</p> <p>指導課室長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれ個々に合わせたということになるのだろうが、今回の改定のところで何か大もとのほうで特徴があるとか課題があるとか方向性が示されたことがあったら教えていただきたい。 ○ これは、個々の子どもに応じた本を選ぶということで、大きくこちらとして方針を変えているということではない。今まで、平成23年からこの多くの本から選べるという形にしているが、それ以降は大きく方針としては変わっていない。個々に応じたものをしっかり選ぶということである。
<p>教育長</p> <p>指導課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校は、さっき選んだここに上がってきている教科書というのかこういう市販の本も含めてだが、全てがその学校に行くわけではないということか。 ○ 全てが行くわけではない。

教育長 指導課長 塩田委員	○ それぞれ学校が選んだものに行くということになるのか。 ○ そういうことである。 ○ 選ばれるときはどのようにしてか。実績のあるものを選ぶことが多いのか。
指導課室長補佐	○ 平成23年から方法が変わったが、その中でずっと毎年選ばれている本もこの104冊の中の約4分の1ぐらいはある。4分の3ぐらいは、毎年入れかわりながら変わってきている。これは、子どもの実態に合わせて一つ一つ選んでいるということで、毎年選ばれるものもあれば変わっていくものもあると考えている。
委員長 指導課室長補佐 委員長	○ それは、全部無償ということでよいのか。当然ながら。 ○ そうである。無償である。 ○ いかがか。いろいろな、広い範囲の中から現場の選定委員会のほうで選ばれた教科書である。
塩田委員	○ 文科省が出している本もあるようだが、これは必ず入っているとか選択しなくてはいけないとか、そういったことはあるのか。
指導課室長補佐	○ 文科省の著作本については、毎年この選定の中に入れるようにしている。学校からの要望がないものもあるが、これは今後中学校1年生、小学校1年生になる子どもについては、今回選んでおらず、この年を明けた1月末に新1年生については選ばれた、採択された本の中から選んでいくという形になるので、それに対応できるように著作本については全部入れるようにしている。
東條委員	○ このリストの中に入っていないのは、必ず入れるという意味か。入れるのでこのリストの中には、その文科省の著作本はあえて入れてないということでしょうか。
指導課室長補佐	○ 言われるとおりである。基本的には、文部科学省が方針を立てて作成しているものということであるので、この資料の中には入れていない。今の回答でよいか。
東條委員 委員長	○ 結構である。 ○ 極端なことを言うと、例えば1学級に7人生徒がいたとして、7通りの教科書を使うということも極端なことではあり得るのか。
指導課室長補佐	○ そうである。個々に応じてということであるので、そういう場合もあるが、この一般図書を選ぶという場合には、知的な課題が大きい子どもということになるので、そういう子どもに対して選んでいるということで、全ての子どもに一般図書を給与するわけではない。中には知的な課題があっても学年相応のことができる場合には検定教科書を給与するし、下学年のものを選んだほうがよいという場合には下学年の本を、検定教科書を渡すということもある。それから、学年によっても違いがあるので、学年1クラスの中でいろいろな本を使って学ぶということはあるが、それぞれ子どもの実態に応じたものが選ばれるということである。
委員長	○ 本当に現場を一番よく知っているということで、個々の生徒を一番よく知っている中で選ばれるのだろうか。
教育長	○ そうである。子どもに応じた内容になっていないといけないだろう。内容を見ると、小学校の基礎編に使えるようなものがある。この算数などはそうではないか。
委員長 教育長	○ 今の二極化の中で、基礎的なことを勉強するにはよいかもしれない。 ○ これにもきちんと特別支援学校と書いてある。知的障害教育の教科書であると。
委員長	○ こういう教科もあるし、こういうマナー図鑑もあるし、いろいろ多岐にわ

	<p>たっていて自立するために必要なものばかりだろう。本当に幼児に近いようなものもあるかもしれない。数絵本とか。実際にいろいろな障害を持った子どもがいるわけであるから。</p>
教育長	○ こういう本が普通学級、習熟度の違いがあるわけだから、このようなもの加えるという意味がある。理解しやすいし工夫がきちんとしてある。
委員長 教育長	○ ユニバーサルということでは、一番だ。
	○ 先生方が工夫をすればよいのだが、図を描いてそこへ貼って、実際のもものが飛んできたよという形でつくってやればよいのだろうけれど、教科書自体にこういう工夫がしてある。
委員長	○ 非常に数は多いが、現場の先生方が自分の学校の生徒にとって一番よいものを選んでいくということで、教育委員会はそれを認めるということでのよろしいか、委員の方々。
全委員 委員長	○ <承認> ○ そういうことでよいか。
	<p>では、来年度からの特別支援学級の教科用図書については、以上でよろしくお願いする。</p> <p>続いて、後楽館高等学校のもの。高等学校に移る。</p>
指導課長	<p>○ 続いて岡山後楽館高等学校で使用する教科用図書について採択をお願いする。</p> <p>高等学校は、高等学校独自の選定委員会において選定された教科用図書一覧と別に準備している選定理由をもとに採択をお願いしたいと思う。</p> <p>高等学校用の教科書も後楽館高等学校が単位制の総合学科でカリキュラムを組んでいるため、多岐にわたりかなり分量が多くなっている。なお、選定理由書に第1部と書いてあるが、平成21年度告示の学習指導要領に沿った教科用図書をあらわしており、本年度から第2部はなくなっているが、それは平成21年度告示の学習指導要領が全面実施4年目になり、従前の学習指導要領に沿った教育課程を履修する生徒がいなくなったということになっている。第2部というのが、従前の古い学習指導要領に基づいて作成された教科書であった。今いろいろと用意をしているので、そちらもご覧になりながら採択をお願いしたい。</p>
教育長	○ 今言ったのは、高等学校が21年度採用の分がいなくなったということか、子どもがいなくなったということか。
指導課長	○ そうである、卒業をした。
教育長	○ 卒業してしまったということ。
委員長	○ 後楽館高等学校での採択委員会は、どのような状況であるか少し教えてほしい。
指導課指導副主査	○ 高等学校であるが、委員長は学校長である。教頭が副委員長、その他には各教科主任が入っている。それから、地域の方ということで一般の方が数名入っておられる。
委員長	○ P T Aとか学校協議会の方とか。
指導課課長補佐	○ 地域の方は、P T A会長と学校運営協議会の会長である。
委員長	○ これは、多分県立の高等学校においてはいずれもシステマ的には同じであるか。
指導課長	○ 高等学校は同じである。
委員長	○ 後楽館高等学校だけというわけではない。全体を通して見て、難しさというか、一見してどの教科がというのではなく、難しそうなものを選んでいくのか、そうでもないのかということとは難しい質問であるか。
指導課長	○ 実態は、後楽館高等学校には大学進学を希望する生徒もいれば、早くから

<p>委員長 指導課長</p>	<p>専門的な道に入る生徒もいるので、段階的にもさまざまな段階の教科書を採択する必要がある。だから、数学にしても進学を希望する生徒が使うような高度なものから一般的なものまで多岐にわたっているという、そういう実態である。</p> <p>○ 習熟度別というか進路別に集まったらそれができるのか。</p> <p>○ そうである。自分の進路に基づいて時間割を組んでいくので、進学者用の数学であるとか、基本用の数学であるとかという、その講座に合わせた教科書を採択していると考えていただければ。</p>
<p>委員長 東條委員 指導課長</p>	<p>○ そういう教科書のようなものである。一番難しいのが数学か。</p> <p>○ 例えば選挙権が18歳に引き下げられてというような時事的な問題に関しては、どのぐらいの期間までさかのぼって対応できるのか。</p> <p>○ 実際に18歳選挙権のことは、現代社会であるとか政治経済とかに反映されてはいない。というのが、法律が採択されたのが今年度なので、それに向けてまだ教科書会社の準備ができてなかった。であるから、授業の中でそういった教育を教員の側が補っていかなくてはいけない、そのような状況であると思う。</p>
<p>東條委員 指導課長</p>	<p>○ 過去1年ぐらい以前であれば反映されているということになるのか、おおよそ。</p> <p>○ 1年、2年。例えば中学校の地理的分野の統計などは、やはり2、3年前のものしか掲載できないという難しいところがあるので、同じ考え方になるのではないかと思う。</p>
<p>委員長 指導課長</p>	<p>○ 時々記述が間違っていた場合に差し替えをするようであるが、そういう類にはならないのか。</p> <p>○ 教科書会社が、18歳の選挙権の問題について対応するというのは聞いてはいない。</p>
<p>委員長 指導課長 委員長</p>	<p>○ これは高校生だから有料ということか。</p> <p>○ これは有料である。</p> <p>○ 無償ではないから、自費で買おうと思えばそういうことはできるのだろうが。教科書会社が優先的に新しい情報に差しかえるということはなさそうである。</p>
<p>指導課長 委員長 指導課長 委員長 塩田委員 委員長</p>	<p>他にはないか。全体的なことや個別の教科書について。 高等学校もちろん芸術はあるのか。芸術や情報など。</p> <p>○ ある。</p> <p>○ その教科書はあるか。</p> <p>○ ある。</p> <p>○ 情報教育や、音楽や美術など。</p> <p>○ これは家庭科、社会や情報など。</p> <p>○ 美術はこのように大判である。ずっと見ればいろいろおもしろそうで、読み物としておもしろそうであるが。</p>
<p>教育長 委員長 奥津委員 指導課長 委員長 指導課長</p>	<p>高校生はこのように大きな判をかばんに入れるのか。置いておくのか。</p> <p>○ どういう使い方しているのだろうか。</p> <p>○ 少々大きいが。</p> <p>○ かばんには入るだろう。</p> <p>○ 後楽館高校には教室がない。単位制総合学科である。</p> <p>○ そうであった。</p> <p>○ 各自のロッカーを用意して、そのロッカーにいろいろ物を入れて日々活動をしているのが後楽館の生徒であるが、毎日持ち帰りしているのかロッカーの中に置いているのかについては不明である。</p>

委員長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科によってこれだけ判が違うというのは、生徒たちは大変であるが、教科の特性だから仕方がないであろう。 ○ 生徒は、自分の取る単位によって選ぶわけであろうから。これだけ並んでいるが、単位の数が幾らになるかによって絞られた数になるのだろうが。 ○ いかがか。これも学校現場の教科書採択委員会で、教員だけではなく外部の人も入って決められたということで、決定でよろしいか。 ○ <承認> ○ ではそういうことをお願いします。 ○ 5時10分である。次はいかがするか。教育長、続行すべきか。 ○ 延ばすことでよいのでは。また4日にいずれにしても来るわけだから、続いてやればよいのではないか。 ○ あと1、2、3、4、5教科。 ○ 5教科。 ○ 5種類残っているということで、仕切り直しで。 ○ 小学校については。 ○ 小学校であるか。 ○ 議決をいただかないといけないので。継続ではあるが。 ○ 小学校も。 ○ そうである。 ○ これも来週ではいけないのか。来週というか4日で。 ○ 構わない。 ○ では、続行とも考えたが、後が多いということで。各委員の方々が慎重に様々な意見を言ってくださったので、相当な時間になった。申し訳ないが、もう一回とらせていただきたい。 事務局のほうからはよいか。 傍聴の方は申し訳ないが、もう一回ということをお願いします。 では、以上をもって本日の7月の定例会は終了とする。
教育長	
委員長	
全委員	
委員長	
委員長	
教育長	
委員長	
教育長	
委員長	
指導課長	
委員長	
指導課長	
教育長	
指導課長	
教育長	
指導課長	
委員長	

傍聴の状況		
報	道	1名
一	般	12名